

授業科目名	生活デザイン総論Ⅱ				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

現代社会では、モノやお金、ヒト、情報が簡単に移動し、そのためさまざまな課題が見受けられます。そこで本授業では、現代社会に対応するために、「共生社会」「持続可能な社会」「リスク社会」に対する現状や課題を把握し、ファッションの力でわたしたちの身近な問題についての解決策を考え、これからの社会に対応できるような気付きと問題解決力を備えることを目的とします。具体的には「防災」「ジェンダー」「持続可能性」「インクルーシブデザイン」「経済・消費」「多文化共生」「デジタル・IT」などについて学び、その対応策について議論します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

インクルーシブデザイン、多文化共生などの資料を通して、社会の課題を知る。

目標：

社会の課題を学び、再考する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

グローバル社会における自己の役割について課題をみつけ、実践に導く力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ワークシート	30 %	： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。
課題レポート	30 %	： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。
発表	20 %	： 本学のルーブリックに基づき、評価する。
定期試験	20 %	： 本学のルーブリックに基づき、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中治彦編著 『SDGSと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』 学分社
水野大二郎+Synflux編著 『サステナブル・ファッション ありうるかもしれない未来』 学芸出版社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 授業の前後、オフィスアワーに対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 震災・減災への取り組み 実例から震災の現状と防災・減災の視点を学ぶ。また、ファッションデザイン領域からの防災・減災のアプローチについて考察する。	震災・防災ファッションをデザインする。	4時間
第2回 持続可能な社会とシティズンシップ 持続可能な社会とはどのような社会なのか、身近な事例を概説する。21世紀市民として生きるためには、知識のみならず、問題に関わり、どう解決していくのかの実践力が必要である。シティズンシップ思想とその可能性について、ファッションデザインでどのように実践するかを考える。	シティズンシップ思想にそぐうファッションデザインを提案する。	4時間
第3回 ユニバーサルデザイン／インクルーシブデザイン ユニバーサルデザイン・公共空間のユニバーサルデザインの事例を理解し、企業の製品・公共空間についても多様な配慮がなされていることに気づく。またユニバーサルデザインからインクルーシブデザインへの流れを理解する。グループディスカッションから、デザインの多様性とその意義について考える。	身近なユニバーサルデザインについて調べる。	4時間
第4回 多様な人々への理解と課題 障がいへの理解とその課題について、体験を通して学ぶ。さらに校内リサーチを行う。	校内の配慮点と課題についてレポートにまとめる。	4時間
第5回 セクシュアリティとジェンダー 多様な人々への理解の一環として、現代社会でも課題となるセクシュアリティとジェンダーについての考えをファッションを通して深める。	ジェンダーレスと思われるファッションスナップを集めておく。	4時間
第6回 サステナブル・ファッション1 国連のSDGS（持続可能な開発目標）から、社会における課題について知る。またそれらの問題がどのようにファッションと関わっているのかを考え、議論する。	現代ファッションの課題を調べておく。	4時間
第7回 サステナブル・ファッション2 映像を観て、現代のファッションの持続可能性についての課題・問題点について考察する。	レポートを作成する。	4時間
第8回 衣生活におけるデザインの役割1 ファッションの歴史を概観、デザインと機能性について学び、現代における課題を考察する。	ワークシートを作成する。	4時間
第9回 衣生活におけるデザインの役割2 インクルーシブデザインの中でも特にファッションで何ができるのかを実例を通して理解し、衣服の役割について考察する。	インクルーシブファッションをテーマにデザインする。	4時間
第10回 多文化共生社会とは何か 多文化共生社会を知るために、人種・エスニシティについて学ぶ。	移民問題について資料を集めておく。	4時間
第11回 多文化共生社会における生活文化 多文化共生に関する映像を観て、グループで議論し、レポートを作成する。	レポートを作成する。	4時間
第12回 デジタル・ファッション1 今後発展が見込まれるデジタル・ファッションを概観する。写真・映像で事例を知る。	ワークシートを作成する。	4時間
第13回 デジタル・ファッション2 デジタル・ファッションと周辺産業との関係性を知る。自身でもリサーチを行い、レポートにまとめる。	レポートを作成する。	4時間
第14回 発表 後期の講義テーマによるファッションデザインを再考、グループで資料をまとめて発表する。	発表資料の準備をしておく。	4時間

授業科目名	生活デザイン総論 I				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

少子高齢化による人口減少時代の到来、高度な情報技術の発達によるグローバル化、地球環境問題の深刻化など、わたしたちを取り巻く環境は急激に変化し、ライフスタイルや価値観は多様化しています。自分自身の生活を見つめ、どのように人生を組み立てていくのかを視座におきつつ、社会的、経済的、精神的自立をめざし、必要な生活資源について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代生活の諸相と生活設計の理解

目標：

現代社会の現状を知り、自己の生活設計を明確にできる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

現代社会の現状と課題を知り、課題解決できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ワークシート	30 %	： 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。
課題レポート	30 %	： 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。
発表	20 %	： 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。
定期試験	20 %	： 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし
授業にてプリント類を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 授業前後の質問を歓迎します。
指定曜日のオフィスアワーに対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 一人暮らしの生活設計 一人暮らしをする場合の生活費について考察する。	1週間の収入と支出について記録し考察する。	4時間
第2回 多様な働き方 非正規雇用と正規雇用の相違について学ぶ。	資料を中心にアルバイトについて考察する。	4時間
第3回 社会保障制度 社会保険（医療・年金・雇用・介護など）について、その利用の方法と問題点を考える。	社会保障制度について新聞記事を収集しておく。	4時間
第4回 男女の役割分業から男女共同参画社会へ 男女の役割分業から男女協同参画社会への系譜、雇用形態（正規・非正規・派遣など）の変化による社会システム、生活システムの変化について学ぶ。	課題レポートを作成する。	4時間
第5回 多様な家族と人生 家族の変遷について学ぶ。現代生活における家族について、ライフイベントから考察する。	家族の機能変化について、振り返りシートを作成する。	4時間
第6回 コミュニティとアソシエーション 近年見直されているコミュニティとアソシエーションについて学ぶ。また、これからのコミュニティ、アソシエーションについて考察する。	ワークシートを作成する。	4時間
第7回 資本主義と消費社会 資本主義の成立と消費社会からグローバル社会までの理解を深める。	ワークシートを作成する。	4時間
第8回 資本主義とファッション 資本主義の発達にともない、ファッションは成立した。その流れを知り、今後のファッションまでを概観する。	20世紀のファッションの成立について調べておく。	4時間
第9回 衣料の生産と消費 衣生活について、生産から消費までを学ぶ。そのうえで現在の衣についての問題をグループディスカッションする。	ワークシートを作成する。	4時間
第10回 現代の消費とものづくり ファッション・アパレル産業の消費の問題を理解し、考察する。また様々な分野のものづくりから産業を学び、これからの生産・消費について考える。	衣料品、ものづくりについて資料を集める。	4時間
第11回 インターネットとデジタル時代1 生活に欠かせないものとなったインターネットと、その機能、メディアの基礎について学ぶ。	日常的に使うSNSについて情報を得、まとめておく。	4時間
第12回 インターネットとデジタル時代2 前回の授業を踏まえたうえで、これからのインターネットサービス、デジタル事業を考察する。	課題レポートを作成する。	4時間
第13回 贈与と資本主義 1 贈与というシステムについて学ぶ。	ワークシートを作成する。	4時間
第14回 贈与と資本主義 2 前回の授業を踏まえて、現代にそぐう贈与のシステムについて考察する。	ワークシートを作成する。	4時間

授業科目名	アパレル繊維学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維製品の商品企画、製造、販売、品質管理、消費などの様々な場面において発生する問題の把握と解決方法の提案には、それらに使用されている材料の理解が非常に重要である。本科目では、衣服を構成する繊維材料の最小単位と言える繊維について、その種類、構造、性質、製造プロセスの基本的知識を習得する。分子論的、微細構造的、形態的の様々な視点から考察し、繊維素材の製造技術、性能や機能のメカニズム、材料ごとの最適な用途の理由を理解する。また、繊維の見分け方や繊維製品表示に関する知識も身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

繊維は、天然繊維から化学繊維まで種類が極めて多いことを理解する。
繊維は、種類により、特徴や形態が異なることを理解する。

目標：

天然繊維と化学繊維の違いを説明できる。
繊維の種類による特徴を説明することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生じる諸問題を発見し、解決できる力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

中間テストおよび期末テスト	60 %	：	「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という観点から評価する。
小テスト	20 %	：	毎回授業終了時に行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。
演習課題	20 %	：	授業外学習として、「授業で得られた知識を用いて、課題解決に向けてどのように考えているか」という観点について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
被服の最小単位と言える繊維を科学的に取り扱う講義となります。被服に関する多くの気づきが得られると思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日
場所： 授業実施教室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 繊維の種類と歴史 繊維学で何を学ぶのか、繊維とは何か、いつからあるのかなどについて説明する。	普段着用している衣服の繊維は何かを調べ、どの繊維が多いのかまとめる。	4時間
第2回 高分子と繊維の関係 繊維を構成している高分子とはなにか、高分子の構造や特徴について学ぶ。	身の回りにあるアパレル製品以外の高分子材料について、アパレル製品と似ているところ、異なるところを調べる。	4時間
第3回 繊維の構造と性質の関係 繊維の構造や形態が、繊維の様々な性能にどのように関係しているのかを学ぶ。	アパレル製品を使用して体験した性能や品質に関するトラブル事例を調べる。	4時間
第4回 繊維の分類 構造や製造方法などにより、繊維がどのように分類されるのかについて学ぶ。	天然繊維と合成繊維の違いについて調べる。	4時間
第5回 植物繊維（綿、麻） 天然繊維の中で最も身近に使用されている綿の構造や特徴、用途について学ぶ。また、最古の繊維と呼ばれ、古くから衣服に用いられている麻の構造や特徴、用途についても学ぶ。	綿と麻がどのように栽培され、繊維となる工程を調べる。	4時間
第6回 動物繊維（羊毛、その他の獣毛繊維） 動物繊維の中で最も生産量の多い羊毛の構造や盗聴、用途について学ぶ。	獣毛繊維と毛皮の関係について調べる。	4時間
第7回 動物繊維（絹） 古くから高級品として用いられている絹の構造や特徴、用途について学ぶ。	絹について、衣服以外の利用用途について調べる。	4時間
第8回 中間テストと前半のまとめ 前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを行い、その後これまでの内容を復習する。	テストの結果、理解が不十分であった内容を確認し、その項目を再度理解する。	4時間
第9回 再生繊維（レーヨン） 代表的な再生繊維であるレーヨンの製造方法、構造、特徴、用途について学ぶ。	レーヨンが使用されているアパレル製品を調べ、その製品の用途、特徴について調べる。	4時間
第10回 半合成繊維（アセテート） 代表的な半合成繊維であるアセテートの製造方法、構造、特徴、用途について学ぶ。	レーヨンとアセテートの違いを理解し、それぞれの特徴をまとめる。	4時間
第11回 合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル） 合成繊維の中で衣服によく使用されているナイロン、ポリエステル、アクリルの製造方法、構造、特徴、用途について学ぶ。	身の回りで合成繊維が使用されている繊維製品を調べ、その製品を用途、特徴について調べる。	4時間
第12回 その他の合成繊維、合成繊維のまとめ 炭素繊維などの合成繊維について学び、合成繊維について再度理解する。	特殊な用途として用いられる衣服の種類を調べ、その目的や特徴をまとめる。	4時間
第13回 繊維の性能比較、繊維の鑑別 学習した繊維の性能を比較して説明する。また、繊維の鑑別方法の紹介や混用率の計算を行う。	繊維の性能を理解し、着用用途に応じた繊維の選択ができるようにまとめる。	4時間
第14回 新しい繊維、衣服と環境問題 最新の機能性繊維について学ぶとともに、繊維製品リサイクルの現状について学ぶ。	衣料品のリサイクルの現状を調べ、リメイクするなどのようなものにするかを考える。	4時間

授業科目名	アパレル材料学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

繊維製品の商品企画、製造、販売、品質管理、消費などの様々な場面において発生する問題の把握と解決方法の提案には、それらに使用されている材料の理解が非常に重要である。本科目では、衣服を構成する繊維材料について、糸、織物、編物、不織布などの種類、紡績、製織、編成などの製造プロセスの基本的知識を習得する。また、これら材料の構造や性質が、衣服となった時にどのように用途、取り扱い方法、快適性、着心地などに関係するかについても理解できるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

紡績、製織、編成などの糸及び布の製造工程について理解する。
糸及び布の種類、特徴とそれらの性能について理解する。

目標：

繊維が布になるまでの工程について説明できる。
糸、布の種類、特徴及び性能の評価について説明することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生じる諸問題を発見し、解決できる力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

中間テストおよび期末テスト	60 %	：	「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という観点から評価する。
小テスト	20 %	：	毎回授業終了時に行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。
演習課題	20 %	：	授業外学習として、授業で得られた知識を用いて、課題解決に向けてどのように考えているか」という観点について評価する。

使用教科書

指定する

著者

榎本 雅穂他

タイトル

・繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版

出版社

・アイ・ケイ コーポレーション

出版年

・2018 年

参考文献等

テーマごとに適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 繊維から糸へ、糸から布へと構造的に構成される被服材料について、それぞれの段階での構造や性質を把握し、理解することは、被服の商品設計や商品、企画するとき、被服を消費者としての取り扱いときに非常に役立つ知識が得られます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日
 場所： 授業実施教室
 備考・注意事項： 質問は授業前後に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 糸の種類と製造プロセス 紡績糸、フィラメント糸等糸の種類について学び、製造工程やそれぞれの特徴について学ぶ。	自身が着用している衣服を観察し、紡績糸あるいはフィラメント糸のどちらで構成されているかを調べる。	4時間
第2回 糸の太さとより、表示法 糸番手の表示方法やより数、より方向について学ぶ。	ミシン糸や手縫い糸の違いを理解し、生地に応じてどの番手が必要かをまとめる。	4時間
第3回 製織原理と織機の種類、織物の構造（平織） 織物の構造について学ぶ。平織の構造や特徴、組織図について学ぶ。	平織を使用した衣服を調査し、その製品の用途と平織との関係についてまとめる。	4時間
第4回 織物の構造（斜織、朱子織、変化組織） 前回の復習を行いつつ、三原組織について学ぶ。また、これらの基本組織から誘導された変化組織の例を紹介する。	斜織、朱子織を使用した衣服について調査し、それらの特徴と違いについて調べる。	4時間
第5回 編機の種類と編物の構造（よこ編、たて編） 編物のよこ編とたて編の基本組織について学び、それぞれの構造、特徴、組織図について学ぶ。	編物を使用した衣服について調べ、製品の用途と編物の関係についてまとめる。	4時間
第6回 織物と編物の性能比較 前回までに学んだことを踏まえて、織物と編物の様々な性能を比較し、その違いを学ぶ。	使用目的によって織物、編物のどちらを選択すればいいかをまとめる。	4時間
第7回 不織布、布の構造因子 繊維同士を絡めて製造される不織布について、製造方法や特徴について学ぶ。また、布を構成している重要な因子（厚さ、目付、含気率等）について学ぶ。	不織布を用いた繊維製品を調べ、不織布が用いられる理由を考察する。また、含気率の計算を再度行い、理解を深める。	4時間
第8回 中間テストと前半のまとめ 前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを行い、その後これまでの内容を復習する。	テストの結果、理解が不十分であった内容を確認し、その項目を再度理解する。	4時間
第9回 布の性質（耐久性） 布の耐久性に関する性質（引張り強さ、せん断、引き裂き強さ、摩耗強さ）について布の構造と関連付けて学ぶ。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	繊維製品の強度が必要とされる場面にはなにがあるかを調べる。	4時間
第10回 布の性質（形態的性質） 布の耐久性に関する性質（弾性回復特性、剛軟性）について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	布のドレープ性と風合いに着目し、ワンピースを製作するならどのような生地を選択するかをまとめる。	4時間
第11回 布の性質（外観的性質） 布の外観に関する性質（ピリング、しわ、風合い）について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	自身の所有する衣服から、しわが付きやすいものやピリングが生じやすいと実感しているものを挙げ、布構造との関係から理由を考察する。	4時間
第12回 布の性質（快適性） 布の快適性に関する性質（吸湿性、吸水性、保温性など）について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、簡易保温性試験の方法や、吸湿性、透湿性、収着の違いについて学ぶ。	着用時期に応じた生地の選択をするには、どの項目に注視すべきかをまとめる。	4時間
第13回 被服の性質 これまでに学んだ繊維、糸および布の構造や性質が、最終製品としてどのように関わっているかを学ぶ。また、適切な被服管理を行うための知識を学ぶ。	繊維製品を使用していて体験した性能や品質に関するトラブル事例について、原因を考え、そのトラブルを回避するための対策をまとめる。	4時間
第14回 その他のアパレル材料、テキスタイルの将来（スマートテキスタイル、）	これからの社会で必要とされる衣服について、自分のアイデアを考える。	4時間

近年注目されているスマートテキスタイルや、産業用に利用されている繊維材料の事例などを学ぶ。

授業科目名	ファッションデザイン論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、将来、ファッション業界で活躍するために必要となる基本的な知識を学びます。「デザインとは何か」ということから考え始めて、ファッションデザインの歴史や民族衣装などの地域の広がり、さらには衣服のかたちや色についての捉え方や、それを生み出すファッションデザイナーという仕事に至るまで、幅広い知識を身につけられるように、学んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みやデザインに関する知識を得る
ファッションのデザインと衣服の役割に関する専門的知識

目標：

様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる。
ファッション業界で働くために必要な基礎的知識を学び、将来的に自ら考え、活用していけるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

様々な資料や知識をもとにして、ファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解を持てるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

40 %

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『改訂 アパレルデザインの基礎』 社団法人日本衣料管理協会
『史上最強カラー図解 世界服飾史のすべてがわかる本』 能澤慧子 ナツメ社 2012
『20世紀ファッションの文化史』 成実弘至 河出書房新社 2007

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜お昼休み
場所： 生活デザイン学科 第2研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 デザインとは？ あなたの身の回りを見渡してみてください。そのほとんどが「どこかの誰かによってデザインされたもの」ではないでしょうか？ そんなデザインという考え方はいつごろはじまったものなのでしょう。この授業では、デザインというものの発生からその発展について学んでいきます。	デザインとはなにかを、多角的に考え調べてみる。	4時間
第2回 デザインのひろがり 広くは都市や公園のデザインから、建築やインテリア、身の周りのプロダクト、最近ではコミュニティやコミュニケーション・デザインという考えまで、デザインの領域は広がっています。そのデザインの広がりとその動向について学んでいきます。	21世紀に登場した様々なデザイン領域について調べてみる。	4時間
第3回 衣服のデザイン—歴史編 ヒトの着衣の歴史は数千年にも及びます。その長い歴史の中で、これまで様々な衣服のかたちが生み出され、ヒトを飾ってきました。この授業では、古今東西の様々な衣服のかたちについて、歴史を中心に学んでいきます。	この授業で習った服のかたちの類型にあてはまる衣服を、自分の身の回りに探してみる。	4時間
第4回 衣服のデザイン—民族編 世界中を見渡した時に、裸で暮らすヒトはいるのでしょうか？ おそらくないと考えます。なぜなら、一見裸に見えるようなヒトでも、腰ひもを巻いていたたり、皮膚に模様を描いていたりするからです。この授業では、世界中の様々な民族衣装の文化から、奇想天外な衣服のかたちについて学んでいきます。	気になる民族衣装を一つ選び、その民族の暮らしや衣服の成り立ちについて、調べてみる。	4時間
第5回 衣服のかたち 丸、三角、四角、台形、菱形など、数々の幾何学的なかたちはありますが、衣服のかたちもまた、それらの幾何学的なかたちと布が生み出す流体のかたちから構成されています。プロポーション、バランス、コーディネートなど、ファッションにとっても重要な衣服のかたちについて、その基本的な要素を学んでいきます。	丸、三角、四角、台形、菱形といったかたちの衣服の例を自分で調べてノートに書き留めておく。	4時間
第6回 色をまとう 19世紀の半ばに英国人ウィリアム・パーキンが合成染料を発明してから今日まで、衣服はとても鮮やかでカラフルになってきました。では、それ以前の長きに渡り、ヒトはどのようにして布を染めて身にまどってきたのでしょうか。この授業では、衣服の色に焦点を当てて、その成り立ちからコーディネートにいたるまで、広く学んでいきます。	自分のお気に入りの色について、その歴史と染め方について調べてみる。	4時間
第7回 ファッションデザインの基本的な考え方 私たちの表面のほとんどは衣服で被われています。とすれば、衣服は私という存在をかたどっているとも言えます。衣服をデザインするということは、それを身にまとう誰かの存在をデザインすることでもあるのです。この授業では、ファッションデザインの基本となるポイントについて学んでいきます。	ファッションデザインが現代社会に対してはたす役割について調べ考えてみる	4時間
第8回 ファッションデザイナーという仕事 世界で最初のファッションデザイナーは誰でしょう。一説によればマリー・アントワネットのドレスをデザインしていたローズ・ベルタンだと言われています。この授業では、ファッションデザイナーという存在の変遷と、21世紀における社会的な役割について学んでいきます。	自分の気になるファッション・デザイナーについて、できるだけ詳しく調べておく	4時間
第9回 テキスタイルとファッション 私たちが着ているほとんどの衣服はテキスタイルでできています。テキスタイルとは織物や編物、不織布などの多様な繊維製品を表しますが、その作り方や風合い、効能は、衣服づくりにとっても重要な意味を持っています。この授業では、天然繊維や化学繊維など多岐にわたるテキスタイルの、その素材や製法とファッションデザインとの関わりについて学びます。	自分のワードローブの中から着心地が気に入っている1着を選び、その素材について調べておく	4時間
第10回 衣服とフォルム	今年の夏に流行しそうな衣服のフォルムを、雑誌やインターネットで調べてみる	4時間

	<p>いま世界中の人が着ている衣服のかたちは、まさに千差万別です。 地域によっても時代によって異なれば、去年に流行した衣服のフォルムと今年の流行とはまた異なります。 ところが非常にバリエーションがあるとはいえ、衣服は人がまとい暮らすものである以上、無限のフォルムは持っていないのです。 この授業では、素材や物性、あるいはそれが着られる社会環境のなかで生み出される衣服のフォルムについて学びます。</p>		
第11回	<p>衣服と人体</p> <p>衣服はそれだけで存在するのではなく、人が着ることで初めて完成すると言えます。たとえそれがどれほどの手間暇をかけたものであれ、衣服は人が着て、動いて、暮らして、はじめて存在意義を持つものなのです。 この授業では、人体、体形、身体部位などとファッションデザインの関わりについて学びます。</p>	<p>自分の体形の特徴を考えながら、自分の持っている衣服がどのようにプラスに寄与しているかを考えてみる</p>	4時間
第12回	<p>ファッションと社会</p> <p>人は衣服によって社会とつながっています。 衣服を着ることで社会における自分の地位や役割を表していますし、逆に社会の様々な制約をその一身に帯びてもいるのです。 この授業では、ファッションと社会のつながりについて、経済的な側面も踏まえて、様々な角度から考えていきます。</p>	<p>自分の普段着ている衣服が、どのような社会的制約を自分にもたらしているか考えてみる</p>	4時間
第13回	<p>正装と盛装</p> <p>もしある日、あなたの元に「ブラックタイでお越しください」というパーティーの招待状が来たら、あなたは何を着て出かけますか？ 衣服を着ることは様々な意味がありますが、西洋にはドレスコードという厳しい装いのマナーがあるのです。 この授業では、そのドレスコードについて、歴史的な変遷を交えながら、学んでいきます。</p>	<p>日本人が気づかないうちにやっと思いそうな正装に関する間違いの例を調べる</p>	4時間
第14回	<p>まとめーファッションデザインの現在</p> <p>大きな都市の繁華街には、ルイ・ヴィトンやグッチ、エルメス、シャネルといったラグジュアリーブランドの旗艦店が立ち並んでいます。今や、当たり前のように日本人の生活に入り込んでいるこれらのブランドが、どのように誕生し発展し、さらに日本人に広がっていったのか、その変遷について学びます。</p>	<p>まとめと確認の回を受けるにあたって、事前に自筆ノートの整理を準備しておくこと</p>	4時間

授業科目名	アパレル設計実習 I				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	仏アパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。
 平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか？
 平面でのパターン展開や立体裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。
 前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリーブワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。
 ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。

目標：

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
 上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に活用することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
 決められた期限の中で自分がデザインした製作物を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内制作課題1	30 %	：	基礎縫いファイル：基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。
授業内制作課題2	40 %	：	ワンピース：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさの評価する。
作業計画の自己管理	10 %	：	期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。
試験	20 %	：	試験の課題を指定時間内に完成させ、出来具合を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 基本的に在室時は対応しています。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業内容と実習用具について ・単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。授業の方針を理解する。 ・実習用具の種類、名称、使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく	1時間
第2回 手縫いの基礎縫い・ミシン、アイロンの扱い方 ・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。 ・用布をパーツに裁断する。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。 ・基礎縫いの必要性を理解する。	今週の授業内容を終えておく	1時間
第3回 ミシンの基礎縫い ・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。	今週の授業内容を終えておく	1時間
第4回 基礎縫いのまとめと提出。制作するワンピースの分析とアレンジ ・まとめておいた基礎縫いをファイルに順番通り整理し、1冊にまとめ提出する。 ・制作するワンピースのデザイン分析とデザインアレンジする為の資料集め ・ワンピース基本パターンの説明・展開をする。	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回 身頃パターン展開の基礎 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。	集めた資料の中から参考にするワンピースを決めておく	1時間
第6回 身頃パターン展開の基礎、ワンピース制作材料の説明 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。 ・ワンピース制作に必要な布地、用尺などの説明。	自分の持っているワンピースの布地を確認しておく	1時間
第7回 ワンピースのパターン作成 ・ワンピースパターンを作成する。 ・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン作成をする。 ・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。 ・ワンピースパターンの作成。 ・完成したパターンを整理する。	ワンピースに使用できる素材をマーケティングしておく	1時間
第9回 ワンピースの制作、仮縫い ・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。 ・標し付けの種類、方法などを説明後、布に標を付ける。 ・仮構成（仮縫い）の目的、方法などを説明。 ・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。 ・仮構成したブラウスを試着し、鏡の前で体型の観察、補正、デザイン修正を行う。 ・フィッティングの必要性を理解する。	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第11回 ワンピースの制作 ・本構成（ミシン縫い）の工程順序を考え、縫製工程表を作成する。 ・身頃の構成方法の説明後、実習をする。 ・ミシンの掛け方縫い代の始末、アイロンの掛け方、用具の使用方法などを理解する。 ・デザインによって始末の方法が異なることを理解する。 ・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。 ・袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	縫製工程など予定を確認する	1時間
第14回 ワンピースの制作・提出 ・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、プレスする。 ・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真撮影。 ・指定日に提出する。	プレスを終え、細かい修正を行う。指定日に提出する。	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅱ				
担当教員名	水谷 祥子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるという意識を持てるようにする。

1年の前半にあたるこの授業では、和裁用の基礎縫いの練習を中心に、和裁の知識・技術を身につけることとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。

目標：

自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

基礎縫いファイル	：	提出時に、正確さ、美しさ、内容を理解し分かりやすくまとめられているかにより評価する。（3点×13個）
	39 %	
運針用布	：	提出時に、美しさ（縫い目の大きさ、そろっているか、まっすぐに縫えているか、しごいてあるか等）、不足がないかなどを見て評価する。
	16 %	
名称テスト	：	第5回授業時に各部の名称を20問中何問暗記できているかをテストし、評価する。
	10 %	
定期試験（ゆかた）	：	袖15点、背縫い、くりこし内あげ縫い、かけ衿縫い各5点で、それぞれポイントとなる部分を見て評価する。
	30 %	
受講状況	：	各回授業に積極的に取り組んでいるか、授業態度（受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物、授業で使ったプリント提出状況等）を減点方式で評価する。
	5 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修（ナツメ社、2015年）
その他、授業時に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間教室で質問してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明 基礎縫い 用布の裁断 授業の進め方、準備物と購入物等について学習する。 基礎縫い用布を裁断し、準備しておく。	指定した糸、針など次の授業に必要なものを購入する。ゆかた地については下見をしておく。	1時間
第2回 運針の練習 基礎縫いファイルの作成1～とめ方、つなぎ 方～ 運針時の正しい針の持ち方、姿勢、手の動かし方について学習し、運針用布にその通りに縫ってみる。 和裁の基礎縫いについて、種類、使い方などを学習する。 糸のとめ方、つなぎ方について学んだ後、基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。	正確で美しい運針ができるように、各自で運針用布に練習する。運針は、用布に規定の本数を縫って、9回目の授業の終わりまでをめでに提出する。基礎縫いの練習	1時間
第3回 基礎縫いファイルの作成2～縫い方、きせのかけ方、くけ 方～ 縫い方と、きせのかけ方、くけ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。	運針の練習、基礎縫いの練習	1時間
第4回 基礎縫いファイルの作成3～しつけ方～ 基礎縫いファ イルの整理とまとめ 成人用ゆかたについて しつけ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。 作成したサンプルを整理し、名称、方法、要点などを文章や図を使って自分なりにまとめる。 ゆかたの構成と名称について学習し、ゆかたに適した布地について考える。	作成したサンプルを基礎縫いファイルにまとめて提出する。ゆかたの各部の名称を暗記し、名称テストに備える。	1時間
第5回 採寸と寸法決め 名称テスト 前回学習したゆかたの形と名称について簡単なテストをおこなう。 採寸の方法についての説明の後、2人1組で採寸する。 柄合わせについて学習する。	採寸寸法より採寸表1を完成させ提出する。次の授業までにゆかた地を購入し、布地に合った柄合わせを考えておく	1時間
第6回 柄合わせと裁断方法について 前回学習した柄合わせを考慮して裁断方法について学ぶ。 また、ゆかた巾着についても、作り方、準備物を確認しておく。	ゆかたの構成と名称を確認し、しっかり理解しておく。柄合わせを考え、裁断の方法についてもよく復習しておく。	1時間
第7回 裁断 裁断方法について確認した後、柄合わせを考えながら各自裁断する。 各パーツごとに、柄合わせの糸標をつけて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖縫いの所を読んでおく。	1時間
第8回 袖標つけ 袖縫い1（袖下、袖口下） 袖の標つけ、縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。袖縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第9回 袖縫い2（丸み、袖口） 運針提出 袖の丸みの作り方について理解し、縫い上げて提出する。 今回までに各自練習してきた運針用布を提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの背縫い、くりこし内あげ縫いの所を読んでおく。	1時間
第10回 背縫い標つけ・くりこし内あげ標つけ それぞれの標つけの方法について学習し、標つけを仕上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第11回 背縫い・くりこし内あげ縫い1（主に背縫い） それぞれの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間

第12回	背縫い・くりこし内あげ縫い2（主にくりこし内あげ縫い） それぞれの縫い方、かくしじつけについて理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの身頃の標つけの所を読んでおく。	1時間
第13回	身頃の標つけ 前身頃、後身頃の標つけについて学習し、標つけを仕上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントのかけ衿つけの所を読んでおく。	1時間
第14回	かけ衿つけ かけ衿のつけ方を学習し、縫い上げて提出する。かけ衿つけの後、できあがっていない所を仕上げる。前期で縫ったゆかたの部分が正確に縫えているかを確認する。	今までの授業でできあがっていないところがあれば仕上げる。問題のある所は縫い直し、やり直しをする。	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅲ				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	仏アパレル企業にて、デザイン、パターンなど衣服制作の実務経験有り。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか？後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。
スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。

目標：

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解し、衣生活に活用することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
決められた期限の中で自分がデザインした制作物を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内制作課題1	30 %	：	スカート：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
授業内制作課題2	40 %	：	ジャケット：衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
作業計画の自己管理	10 %	：	期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。
試験	20 %	：	指定時間内に課題を仕上げる、出来具合を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 基本的に在室時はいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 スカートの原型 ・ デザインパターンの作図 <ul style="list-style-type: none"> ・ スカートの原型の製図方法を学ぶ。 ・ スカートのデザインパターンの製図方法を学ぶ。 	デザインするための資料を集める。	1時間
第2回 自分のスカートパターンの作図 <ul style="list-style-type: none"> ・ 原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。 	制作するスカートのデザインを考えておく	1時間
第3回 スカートの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 布の地直しをする。 ・ スカートの制作に使用する布の裁断。 ・ ファスナー付けなど基礎縫いの説明。 	使用する生地や付属を揃えておく	1時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。 ・ デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理解する。 ・ ベルト芯、芯地の必要性と扱い方を理解する。 ・ カギホックの付け方を説明後、実習をする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成したスカートの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。 ・ スカートを着装し評価する。 		
第6回 アウターの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 製作するアウターのデザイン分析を行う。 ・ 身頃パターンの展開を行う。 	資料を参考にデザインを考えておく	1時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 衿のパターンを引く。 ・ ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 袖のパターンの基本を学ぶ。 ・ 個々でパターンを修正する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 縫い代付けを行う。 ・ 接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。 		
第10回 アウターの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 布の地直しを行い、裁断をする。 ・ 表地、スレギ、芯地すべて裁断を終える。 	生地や付属など必要なものを揃えておく	1時間
第11回 アウターの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に入る。 	パーツのロックミシン仕末を終えておく	1時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 衿の縫製を説明後、各自縫製する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 袖付けを説明後、袖を各自縫製する。 		
第14回 アウターの制作・提出 <ul style="list-style-type: none"> ・ ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる。 ・ ボタンホールをあけ、ボタンをつける。 ・ 完成したアウターの仕上げアイロンの方法を学び、プレスする。 ・ 指定日に作品を提出する。 	ステッチ、ボタンホールなど細部を仕上げ、提出する。	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅳ				
担当教員名	藤崎 美和				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	和裁実務経験22年(着物縫製をしています)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。
 和裁の基本的な縫い方（運針と基礎縫い）を1から学んだり、1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。
 ゆかたの縫製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

着付けときものたたみ方を学ぶ

目標：

着装を習得する。和服のマナーについても考える。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

協同学習を通して協調性を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（浴衣提出）	60 %	： 作品の内容で採点する。
着付けと畳み方	10 %	： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
提出物	10 %	： 感想文やプリントの提出の内容で採点する（30点満点）。
受講態度	10 %	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
創作小物	10 %	： 創作小物の提出の内容で採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「和裁縫製」発行者：社団法人 日本和裁士会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後（16：40～17：00）

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業後以外で質問がある場合は助手にお伝えください。後日返答いたします。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 脇縫いをする 脇縫いを学ぶ。	脇縫いをして提出する。	1時間
第2回 衿の柄合わせと標をつけて、襷下くけ（1本目） 衿の柄を合わせて、標をつける。 襷下のくけを学ぶ。	おくみの標をつけて提出する。	1時間
第3回 襷下くけ（2本目）・前身ごろの標とおくみつけ（1本目） 襷下くけの続きをする。 前身ごろの標をつけ、おくみを縫い合わせる。	襷下をくけ、提出する。	1時間
第4回 おくみつけ（2本目）、おくみくけ おくみのつけ方と始末を学ぶ。 アイロンできせをかけ、おくみをくける。	おくみを縫い合わせて提出する。	1時間
第5回 おくみくけ（2本目）、衿標つけ 2本目のおくみをくける。 衿の標を学ぶ。	おくみをくけて提出する。	1時間
第6回 衿標つけつづき、脇くけ 衿の標つけを学び、衿つけに備える。 脇をくける。	衿の標をつけて、提出する。	1時間
第7回 衿つけ（下前半分）・脇くけつづき 衿の付け方を学ぶ。 脇くけの続きをする。	衿つけ（下前）を縫い上げ、提出する。	1時間
第8回 衿つけ（上前半分）・額縁と裾くけ 衿つけ（上前）をする。 額縁と裾くけを学ぶ。	衿つけ（上前）を縫い上げ、提出する。	1時間
第9回 衿の始末（掛衿間くける） 衿にアイロンできせをかけて、掛衿間の衿の始末を学ぶ。 掛衿間をくける。	掛衿間のくけをして、提出する。	1時間
第10回 衿先留 衿くけ（衿先まわり） 衿先の始末を学び、衿をくける。 仕上げて提出する。	衿先をくけて、提出する。	1時間
第11回 袖つけ1・2 袖付けを学ぶ。	袖付けをして提出する。	1時間
第12回 袖つけ始末1・2 袖付けの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。 創作小物を制作する。	袖をくけて提出する。	1時間
第13回 袖つけ始末2（つづき）とアイロン仕上げ 袖付けの始末をする。 アイロンで仕上げをして、浴衣のたたみ方を学ぶ。	完成した浴衣を提出する	1時間
第14回 ビデオ鑑賞と着付け練習 ビデオ鑑賞で着付けを学ぶ（プリント提出） 感想文を提出する。 着付けの練習をする（帯結び）。	小テストの勉強をする。	1時間
第15回 小テストと試験（作品提出） 小テストをする。 作品（浴衣、創作小物、プリント）を仕上げて提出する。	作品を仕上げて提出する。	1時間
第16回		1時間

授業科目名	被服整理学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日常生活と非常に関連の深い衣料品について、その素材特性から使用・保管に至る衣料品の取り扱い方について、生活と密着させて考える。最初に、衣服に付着する汚れの種類や特徴について解説した後、それらを除去するための理論について解説する。特に「洗淨」については重点をおき、界面活性剤の特性や洗淨メカニズムを科学的に理解するために、実例を提示しながら解説する。また、日進月歩する機能性を有する衣料品開発について、その最先端の技術を紹介し、将来の衣料品についても考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

衣料管理の中でも特に洗淨と堅牢性に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付ける。

目標：

日常生活において生じるさまざまな取扱いトラブル（色落ち、形状変化・強度低下等の力学的性質変化）について、自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

衣生活における諸事象について、受け身の理解姿勢ではなく原因を探る関心を持つことができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ミニレポート	30 %	：	毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点） 講義内容のみから記載されている（3点） 論点が的確ではない。（1点）
特定テーマに対する課題考察力	30 %	：	2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して15点×2回の30点満点で評価する。社会的背景も含めて考察出来ている（20点） 授業内容のみで考察出来ている（10点）
定期試験	40 %	：	学期末に被服整理に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、40点満点として成績評価に加える。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 「繊維材料にフォーカスした生活材料学」榎本雅穂ら（アイ・ケイコーポレーション）
「ファッションと化学」日本化学会編（大日本図書）
「衣服管理の科学」片山倫子ら（建帛社）

履修上の注意・備考・メッセージ

日常の衣生活と密接に関連した授業内容であり、普段何気なく見過ごしている現象を再認識する授業でもある。
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 衣料繊維の特徴について ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。	授業で解説した、普段着用している衣服について、どのような役割の衣服か？について考え直す。	4時間
第2回 衣料繊維の役割について ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。	普段着用している衣服について、特にスポーツ時における着用の意味を普段の着用と比較しながら考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第3回 衣服の汚れについて 衣服に付着する汚れの種類について解説し、それらがどのような性質を有するかについて理解する。その知識により、日常生活での汚れと洗浄についての関係を理解する。	普段の洗濯の際に、何を考慮すべきかを考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第4回 洗浄における界面活性剤について 界面活性剤とは何かを説明し、身の回りに種々の形で存在する界面活性剤について、その特徴や性質、使い分け方法について講義する。	界面活性剤とは何かを考える	4時間
第5回 洗浄剤に含まれる添加剤について 主として合成洗浄剤に含まれている種々の添加剤について、その役割と混在させる意味を解説し、洗浄剤についての理解を深める。 洗浄助剤の有無による洗浄効果への影響や、人間の感性からみた汚れ落ちと科学的な観点から見た汚れ落ちの差について解説する。	洗浄剤に含まれる添加剤の意味を理解し、洗剤の種類によってどのような洗濯効果が得られるか？を考える。	4時間
第7回 洗浄機構について 洗浄において、親水性および油性それぞれの汚れの除去メカニズムについて解説し、日常生活における効果的な洗浄を理解する。	普段の洗濯を効果的に行うためにはどのようなことを考慮すべきか、について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第8回 仕上げと保管（方法） シーズンオフにおける衣服の保管方法について、その意味や重要性を解説する。	普段の日常生活における衣服の収納方法を考え直す。	4時間
第9回 仕上げと保管（トラブル回避） シーズンオフの衣服の保管方法について、保管中におけるトラブルとその対処法について講義する。	衣服の保管時におけるトラブルを思い起し、その原因について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第10回 精練と漂白（メカニズム） 精練と漂白の根本的な違いと、そのメカニズムの相違について理解する。また、蛍光増白剤の効果についても解説する。	消費者が考える白さと、科学的な白さの違いについて復讐しておく。	4時間
第11回 精練と漂白（素材による相違） 実際の糸状態での精練・漂白操作と、布状態での精練・漂白の工程について解説し、その工程の違いを理解する。	精練・漂白の具体的手段について、日常生活で行っている方法と比較する。	4時間
第12回 加工（一般仕上げ） 繊維製品の後加工として、現在工業的に行われている加工工程について解説する。また、それらの加工により、日常の衣生活にどのような効果をもたらされているかについて理解を深める。	素材そのものの性質を引き出すために、どのような加工が施されているかを調べておく。	4時間
第13回 加工（特殊加工） 繊維製品に機能性を付与するために、現在行われている手段について解説する。	特定の性能を付与するための加工手段と繊維の性状変化を考えておく。	4時間
第14回 加工（将来技術）	将来の快適な衣生活のために考えられる加工を議論できるようにする。	4時間

繊維製品に機能性を付与するために、現在研究されている最新技術を紹介し、将来どのような技術が望まれるかについて考える。

授業科目名	学外連携キャリア演習（インターンシップ）				
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、アパレル・ファッション系等に関連した企業を中心に、夏休みに原則2週間を基本とした就業体験をします。例えば、事務的な業務のみならず営業活動や商品企画、商品管理、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。
企業等での修行体験をすることで、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成ができる

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
社会人としての自覚や職業意識を育成する。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

企業内研修

評価の基準

： 企業の配属先責任者による評価

50 %

事前・事後学習

： インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のルーブリックによる。

20 %

レポート

： 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習8時間、企業でのビジネスインターンシップ80時間～120時間、教室での事後学習2時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。

・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
 場所： 生活デザイン第1、2、3研究室
 備考・注意事項： 専任教員の在室時間はいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説 事前学習：インターンシップの意義、教育的効果について解説します。またインターンシップ先の企業についての理解を進めます。企業研究内容はアパレル・ファッション関連会社などです。	企業研究をしておくこと	4時間
第2回 面談と身だしなみ・マナーに関する学び 事前学習：面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等のマナーを習得します。	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	4時間
第3回 企業内業務の学習 体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己PR書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	授業内容を復習しておくこと	4時間
第4回 企業事前訪問 インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をすること	4時間
第5回 インターンシップ ビジネスインターンシップ（企業内研修）1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4 ビジネスインターンシップ（企業内研修）5 ビジネスインターンシップ（企業内研修）6 ビジネスインターンシップ（企業内研修）7 ビジネスインターンシップ（企業内研修）8 ビジネスインターンシップ（企業内研修）9	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第14回 事後学習とまとめ 事後学習：インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。	これまでの学習を振り返る	4時間

授業科目名	販売論				
担当教員名	里谷 理恵				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ダンスコンテスト、ヘアコンテスト、ショーなどにおける衣装の製作と販売の事業を運営。音楽業界、ダンス業界など異業種とのプロジェクトを立ち上げ、運営。大学で学んだ心理学（認定心理士資格）を活かし、衣装製作とコーチングを通して、クライアント様に寄り添い共に結果につなげることを目指している。販売員経験有り。Vancouver fashion week 出展。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ファッション販売、ファッションビジネスにおける基本的知識の学びを深める。基本的知識を学び理解した上で、よりホスピタリティのある対応について考察し共有することで、理解を深めていく。時代や環境に合わせた接客について、新しく考え出せる視野を持って考察していく。接客販売に限らず、日常生活で必須の対人関係におけるコミュニケーション、自己基盤を整えることについてコーチングや心理学を盛り込みながら、より心地よいコミュニケーション、接客について講義を通して考察する。講義後も、自ら進んで積極的に学び、コミュニケーションを円滑にする行動を、自分で考えて実行できる力へと繋げていけるよう、講義の振り返り、実践を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッション販売技術や商品知識を学ぶ。
 アパレル業界の職業、ファッション販売、ファッションビジネスの知識を深める。

目標：

ブランドを分析することができ、同時にファッション販売における自身のブランディングについても考察できる。

接客スキル、販売技術のスキルを身につける。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP10. 忠恕の心

販売技術、商品知識の理解をもとに、現代社会の多様化されるニーズや価値観に合わせたマーケティング、協働する提案を考察することができる。

多様化する価値観や販売形態を学び、何が自分にとって良いのか、自分で責任を持って選び決めることができる。

接客や販売における心理や技術の学び、グループワークにより、コミュニケーション力や自身の個性のブランディングについても考察することで、相互理解につながる意思疎通が円滑にできる。

ブランドをリサーチし、ファッション販売における自分の意見や価値観についてもプレゼンテーションができ、相互理解ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

講義の他に、課題レポート作成やグループワーク、プレゼンテーションを実施します。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
 欠席した場合は、授業内容や配布物について自ら進んで確認し、試験に備えること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート

： レポートの内容及び考察を加味し、

40 %

グループワーク、プレゼンテーション	:	本学ルーブリックの基準に基づき評価する。
	30 %	
定期試験	:	筆記試験。「販売における基本的な知識を理解できる」「設問について適切な答えを書いている」「講義での学びと、言葉選び、コミュニケーション力の学びを持って、自分の考えを述べている」などから評価する。
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大沼淳(2018)『ファッション販売3：ファッション販売能力検定3級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 大沼淳(2018)『ファッション販売2：ファッション販売能力検定2級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 ションビジネス [I] 改訂版：ファッションビジネス能力検定3級の公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 ションビジネス [I] 改訂版：ファッションビジネス能力検定3級の公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会。
 商業界、『販促会議』株式会社宣伝会議。 石井貴士(2017)『勝てる場所を見つけ勝ち続ける 1分間ブランディング』ヨシモトブックス。 『ファッ
 『ファッション
 『ファッション販売』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	その他、連絡を取りたい場合はEメール (satotani@g.osaka-seikei.ac.jp)まで。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ファッション販売の基礎知識 ファッション販売とファッションビジネスの基礎知識、小売業の業態などを学び、お店の在り方や備えるべきサービスを考察し、販売の基礎知識を深める。	確認問題を解く	4時間
第2回 ファッション販売技術の基本 挨拶、言葉使い、電話対応など販売スタッフの接客についてはもちろん、社会に出た時に役立つ基本的なビジネスマナーを学ぶ販売員の1日の流れ、基本となる接客、販売業務と付帯業務、備品・商品管理、その付帯業務について学び、実践するスキルを身につける。	確認問題を解く	4時間
第3回 購買心理と接客ステップ お客様が購入に至るまでの心の動きを知り、その心理に合わせた接客ステップ、その具体的なポイントについて学ぶ。	確認問題を解く	4時間
第4回 お客様心理 お客様のタイプ別の事例を挙げ、その心理について学ぶ。お客様観察、心理を想像する力についても考察し、共有することで、コミュニケーションについての理解を深める。	確認問題を解く、レポートを提出	4時間
第5回 商品知識 アイテム、シルエット、サイズなどの商品における基礎知識と、商品管理の基本から不良品の見分け方も学ぶ。接客時に的確に説明できるスキルを養うとともに、商品企画やデザインにも役立てることができる視野の広い販売力を目指す。	確認問題を解く	4時間
第6回 ファッションマーケティング どうすれば売れるか、情報収集と分析の基礎知識を学ぶ。 ※次回パソコンを持参すること。	確認問題を解く	4時間
第7回 ファッションコーディネート 店頭でのコーディネーター、スタイリングを学ぶ。また、企業におけるスタイリングを学ぶことで、販売時に的確な説明ができるよう、広い視野を持った販売力を養っていく基礎を身につける。 ※次回パソコンを持参すること。	グループワーク、発表	4時間
第8回 プレゼンテーション力 接客販売、日常でのコミュニケーションにおいて必要になってくる、伝える力と聞く力。プレゼンテーションについて学び、より効果的に他者に伝えること、言葉選び、より相手の考えを汲み取れるよう聞く力について学ぶ。プレゼンテーション資料の作成。	好きなブランドについて、理論的にその良さ、理由をプレゼンする。その資料を作成する。	4時間
第9回 発表1 自分の好きなものを取り上げて、プレゼンテーションする 全員発表。 「自分の好きなブランド」について発表者の評価表を記入しながら聞く。 相互評価、質疑応答を通して共有する。 チャトルシート(プレゼン評価表)を作成する。	評価表を記入する	4時間

第10回	発表2 自分の好きなものを取り上げて、プレゼンテーションする、全員発表。 「自分の好きなブランド」について発表者の評価表を記入しながら聞く。相互評価、質疑応答を通して共有する。チャトルシート（プレゼン評価表）を作成する。	評価表を記入する	4時間
第11回	売り場づくり：MD 売り場やサイトについてのレポートを基に、MD（商品計画）の基礎知識を学ぶ。シーズンごと、月ごとに売り場での商品販売計画について学ぶ。	確認問題を解く	4時間
第12回	売り場づくり：VMD ビジュアルマーチャンダイジングの具体的な手法、効果的な商品の見せ方の法則を学ぶ。	確認問題を解く	4時間
第13回	ホスピタリティとクレーム対応 ホスピタリティのある接客販売、顧客作りについて学ぶ。クレーム対応について、対応を自分で考えコミュニケーションを見直していく。また、コロナを経て急激に拡大しているアパレルECについても触れ、対面接客販売に限らず、ネット販売での接客について学び、メリット・デメリットを考慮し、どのように改善できるか、何ができるかを考察していく。	グループワークをする	4時間
第14回	ファッションビジネス基礎知識 ファッションビジネスの基礎知識を知ることで、販売までの経路を理解し、視野を広く持って、店頭でスキルを発揮できる販売能力を身につける。ここまで学んだ知識を振り返り、接客販売を深める。	確認問題を解く、レポートを提出	4時間

授業科目名	ドローイング演習				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ファッションの専門的な学びとして、ファッションドローイングの表現技術を習得することを目的とします。ファッション表現の第一歩となるデザイン画を描くために、衣服を身につける人体のプロポーションを理解し、様々なポーズ、顔やヘアスタイルの描き方を学びます。そして、洋服の着装方法や画材を使用しての着色技法を習得します。その後、トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションの専門的な知識、技能としてファッションドローイングの表現を学ぶことができる。

目標：

トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

ファッションの専門的なドローイング技術、知識を学ぶことで、将来ファッション業界で活躍するために、今の自分に足りていないことを学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

T-SHIRTコンテストの提出物	：	T-SHIRTコンテスト提出物の完成度、現代性を評価します。
25 %		
最終提出物	：	ウェディングドレスのデザイン画の完成度、現代性を評価します。
20 %		
課題提出	：	複数回、授業内課題の提出の完成度で評価します。
30 %		
定期試験（作品提出）	：	課題の完成度、現代性を評価します。
25 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高村是州著 『ファッションデザインテクニック』 グラフィック社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 生活デザイン第3研究室

備考・注意事項： 授業前後、オフィスアワーで対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 デザインとドローイングの概要説明 ファッション業界の中でのデザインとドローイングの役割を学ぶ。 自由なテーマでスタイル画を描く。	スタイル画の修正をしておく。	1時間
第2回 基本プロポーションと着装 リアルな女性とデザイン画で描く女性のプロポーションの違いを学ぶ。 ヌードを描く時の重要なポイントになる身体の向きと体重移動を学ぶ。	身体の向きと体重移動の関係を復習しておく。	1時間
第3回 応用プロポーションと着装 身体を中心線、重心線、身体の向きを理解し、ポーズのバリエーションを学ぶ。 スカート・トップスの着装姿を描く。	布の動きの描き方を復習しておく	1時間
第4回 顔・ヘアスタイル・ボディパーツの描き方 正面向きの顔の描き方（目・耳・鼻・口）とヘアスタイル、手、足の表現を学ぶ。	自分の好きな顔を描けるように復習しておく	1時間
第5回 アウトラインの描き方 デザイン画の輪郭線となるペン入れを学ぶ。 ペンの種類と用途を説明。	ペンの種類と用途を理解しておく	1時間
第6回 着色表現 画材の種類と用途、着色表現を学ぶ。 目的に応じた選び方と仕上がりの違いを説明。	画材ごとの特徴を理解しておく。	1時間
第7回 シルエットとファッションアイテムの理解 シルエットの種類、服のフォルム構成を学び、生地動き、ドレープ、フレアー、ギャザーなどの表現を学ぶ。	ドレープ、フレアー、ギャザーを描けるように復習する。	1時間
第8回 テキスタイル表現 ドット柄・花柄・ストライプ柄・チェックなどプリント柄の表現、トレンドの素材や、デニム、ツイード、ファー、アニマル柄の表現を学ぶ。	プリント柄ごとにどのような画材が適しているか理解する。	1時間
第9回 Tシャツデザイン Tシャツデザインコンテスト応募に向け、プリントデザインを考え、実際にイラストを描き、着色する。	Tシャツのデザインのリサーチをする	1時間
第10回 アイテム画1（シャツ・スカート/パンツ） シャツやスカート/パンツなどのアイテム画を学ぶ。	衣服のつくりを観察し、理解する。	1時間
第11回 アイテム画2（ジャケットなどのアウター類） ジャケットなどのアイテム画を学ぶ。	人体に乗った布地の動きを復習する。	1時間
第12回 オリジナルテーマからのデザイン展開1（テーマのリサーチ、ディテール展開） 各自テーマを設定する。 トレンドのリサーチを行い、中から好みの3ディテールを選び、展開する。	個人テーマを考えておく。トレンドリサーチをしておく。	1時間
第13回 オリジナルテーマからのデザイン展開2（デザインを考え、実際に描いていく） ディテールの展開を活用しながら、デザインのラフデッサンを行う。	デザイン画を描いていく。	1時間
第14回 オリジナルテーマからのデザイン展開3（仕上げ）・まとめ 全体のバランスを考えながらデザイン画を指定枚数選択、着色、仕上げまでの作業を行う。	着色・デザイン画を仕上げる。	1時間

授業科目名	パターンメイキング I				
担当教員名	北谷 五月				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣服の構造を理解し、平面（生地）から立体（洋服）へとイメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。各種デザインへの発展を目的にデザイン・素材に応じたパターン展開とディテールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテムのトワール組み立て（仮縫い）を行い洋服の構成を学ぶ。
また、各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、製品用パターン（工業用パターン）の制作とデザインを明確に他者に伝える為の縫製仕様書の作成を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

パターン用語・パターン記号などの専門知識、ダーツ移動などの基礎展開を習得する。
各アイテム毎にトワールの組み立てを行いシルエット確認を行う。

目標：

デザインに応じたパターンの制作が出来る。
履修内容を用いてデザイン上で必要なパターン修正が出来る。

汎用的な力

- DP7. 完遂

期日までに各アイテムのパターン・トワールの制作が出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題1

25 %

授業内課題2

25 %

授業内課題3

25 %

授業への取り組み

10 %

定期試験

15 %

評価の基準

： 基礎的なパターン展開力・スカートのパターン・トワールの完成度で評価する。

： パンツの構造の理解。パンツのパターン・トワールの完成度で評価する。

： 身頃トワールの完成度、衿や袖などの構成の理解度で評価する。

： 積極的参加・受講態度・授業ノート

： パターン基礎(名称・記号・基礎展開)・1/4作図を含む筆記試験にて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

誌上・パターン塾 vol.1 トップ編 文化出版局
誌上・パターン塾 vol.2 スカート編 文化出版局

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 パターンメイキング基礎知識・スカート原型 パターンメイキング基礎（各部名称・採寸方法・定規の使い方説明） 平面と立体について（ペーパークラフト） スカート原型作成	平面と立体について復習	2時間
第2回 スカートパターン スカートパターン・縫い代付け・パターンカット・生地 の地直し・裁断	ノートまとめ	2時間
第3回 スカートトワール組み立て タイトスカートトワール組み立て	トワール完成させる	2時間
第4回 スカートバリエーション（1/2原型使用） フレアスカートパターン ギャザースカートパターン マーメイドスカートパターン（2種） ヨーク切り替えスカートパターン プリーツスカートパターン（3種） キュロットスカートパターン	各シルエットパターン展開復習	2時間
第6回 パンツ原型作成（実寸） パンツ原型作成（実寸） スリムパンツ・ブーツカットパンツ・ワイドパンツ（1/4原 型使用）	ノートまとめ	2時間
第7回 タックパンツパターン（実寸） タックパンツパターン展開（切りポケット・本股明き） 工業用パターン作成（パターン抜き取り・縫い代付け・パ ターン記号、名称記入）	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第8回 パンツトワール組み立て シーチング裁断・接着芯貼り・本縫い（ポケット作成・フ ァスナー付け） パンツトワール作成・本縫い（脇線・股下・裾始末）・ベ ルト付け・完成チェック	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第10回 身頃原型作成（実寸）・ダーツ移動・袖パターン 身頃原型作成（実寸） 身頃と見返しの関係性・持ち出しについて説明 ダーツ移動・分散・分割（1/4原型使用） 身頃と袖の関係性・袖山の高さについて説明 袖の引き方 袖シルエットパターン（タイトスリーブ・フレアスリーブ ・パフスリーブ）	様々な袖の種類・構造を調べてノートにまとめる	2時間
第11回 衿パターン 衿ぐりと衿付け線の関係性・衿の種類・構造について説明 衿シルエットパターン（スタンドカラー・ステンカラー・ フラットカラー・ボウカラー）	様々な衿の種類を調べてノートにまとめる	2時間
第12回 身頃トワール組み立て 身頃と見返しの関係性・持ち出しについて説明 トワール用身頃パターン作成（ブラウス用原型使用・見返 し作成・ステンカラー・タイトスリーブ） シーチング裁断・バイヤステープ作成 身頃トワール組み立て（身頃・衿付け） 身頃トワール組み立て（袖作り・袖つけ） 身頃まとめ	見返し・衿に接着芯を貼っておく	2時間

授業科目名	パターンメイキングⅡ				
担当教員名	北谷 五月				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書の作成を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

衣服の構造を理解し、イメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。
 各種デザインへの発展を目的に、デザイン・素材に応じたパターン展開とディティールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテム毎にトワールの組み立てを行い、衣服の構成や縫製について理解を深める。
 各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、工業用パターン・仕様書の作成を行う。
 後期授業では、前期で学んだ基礎展開を応用しワンピース・ジャケット・コート等の重衣料のパターン・縫製仕様を習得。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ワンピース・ジャケット等の素材・縫製に付いての知識を深める。

目標：

素材に応じたパターン展開が出来る

汎用的な力

1. DP7. 完遂

決められた時間内にジャケットの工業用パターン作成およびトワール組み立てが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1（ワンピース）	10 %	：	ワンピースのパターン
授業内課題2（テーラードジャケット）	35 %	：	テーラードカラー・袖の構造の理解度、パターン・トワールの完成度で評価する。
授業内課題3（ラグランジャケット）	20 %	：	ラグランスリーブ・フードの構造の理解度・パターン・トワールの完成度で評価する。
ミニドレス	10 %	：	構成の美しさ・テーマ
授業への取り組み	10 %	：	積極的参加・受講態度・授業ノート
定期試験	15 %	：	パターン記号・各部名称・ダーツ移動・1/4作図などの筆記試験にて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編 文化出版局
誌上・パターン塾 vol.5 ジャケット&コート編 文化出版局

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。
パターンからトワール完成まで数回に分けて授業が進みます。休まないように出席する事が大切です。
やむを得ず休んだ場合は次の授業までに授業内容の確認をしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後30分程度

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 前期復習・フィット&フレアワンピース 身頃ダーツ移動復習 ワンピース身頃作成	ダーツ移動について復習	2時間
第2回 フィット&フレアワンピース 袖・衿パターン 縫製仕様書	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第3回 ラグランジャケット 身頃パターン・ラグランスリーブ・フードパターン作成 工業用パターン作成 シーチング裁断・接着芯貼り トワール作成（ラグランスリーブ・衿（フード）付け） トワール作成（箱ポケット・脇・裾始末・まとめ・仕上げ）	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第6回 テラードジャケット ジャケットの各部名称説明 布地の厚み・裏地について説明 身頃ダーツ移動・パネルライン・衿パターン作成	ショールカラーとテラードカラーの構造の違いを調べてノートにまとめる	2時間
第7回 テラードジャケット 衿・見返し厚みだし 2枚袖の構造について説明 2枚袖パターン 工業用パターン作成・パターンカット シーチング裁断・接着芯貼り・身頃トワール組み立て 衿・玉縁ポケットトワール組み立て	いせ込みについてまとめる	2時間
第11回 テラードジャケット 袖トワール組み立て・完成チェック・まとめ	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第12回 ディテールパターン 円フリル・ドレープ・プリーツ	縫製手順をノートにまとめる	2時間
第13回 ミニドレス（グループワーク） 1=2サイズ原型使用 身頃パターン・スカートパターン ミニドレス完成	テーマをまとめる	2時間

授業科目名	テキスタイル基礎実験				
担当教員名	澤田 和也・坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

被服繊維学、被服材料学及び被服整理学に関する分野の基礎的な実験を行い、繊維や被服材料の特性、消費性能について深く考える能力を養うとともに、被服の適切な取り扱いについて理解を深めるようにすることを目的とする。いずれの分野においても「日常生活と繊維」をキーワードに繊維の特性、消費性能に関わる種々の実験を通してその現象を体験する。また、実験に対する報告書の作成方法について基礎から習得し、論理的に実験現象を理解できる素養を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実験科学的に繊維を評価する手段の基礎を学び、実験操作の基礎を身に付けることができる

目標：

衣料管理士課程への基礎実験として、被服整理学関連および材料学関連の基礎実験スキルを身につける。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

実験に失敗した場合の原因究明や対応策をグループで協力して考える力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実験への取り組み状況	20 %	：	実験に対する姿勢や意欲を重視するため、積極的に作業に参加しているか、主体的な行動ができていないか、実験に集中して正しい操作を行っているかの点について評価する。
実験レポートの内容	60 %	：	レポートごとに、実験内容や操作法の習得度と科学的な観察や考察ができていないかを評価する。
定期テスト	20 %	：	実技テストと筆記テストを行う。実技テストはすべて個人ごとに行い、100分間で実験に対する考察力を評価する。筆記テストでは実験内容の理解が到達目標に達しているかを確認する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）
場所： 生活デザイン第1研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 全体説明、(材料分野) 繊維の性質(形態観察、燃焼性) テキスタイル基礎実験の整理分野、材料分野それぞれの内容について概説し、実験実施方法、実験を行う上での注意点、レポートの作成方法について説明する。 また、繊維の鑑別の基礎となる2つの手法を学ぶ。まず、顕微鏡により各種繊維の形態観察を行う。その後、種々の繊維を燃焼させ、その燃え方、煙や灰の状態などを観察する。	前期の被服整理学における洗浄領域、アパレル繊維学の素材の種類について理解しておく	4時間
第2回 (材料分野) 糸の構造(糸の太さ) 糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。測定した糸の長さや質量から、糸の太さ(番手)を求める。	身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている糸について表記されている番手を調べる。	4時間
第3回 (材料分野) 糸の構造(より) 糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。糸のより方向を判定し、検燃器でより数を測定する。	身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている糸について表記されている糸のより方向を調べる。	4時間
第4回 (材料分野) 布の構造(組織、糸密度) 布の構造特性を調べる手法を学ぶ。布の表面を観察し、織物と編物の判別を行う。さらに、織物については組織図を作成する。糸密度の測定を行い、布の特徴を理解する。	布の構造、組織の種類とそれぞれの特徴について、製品の用途との関係を考察する。	4時間
第5回 (材料分野) 布の構造(厚さ、目付、含気率) 布の構造特性を調べる手法を学ぶ。布の厚さ、質量を測定し、目付、含気率を計算する。	織物のたて糸とよこ糸では異なる糸が用いられる場合が多い。織物を作る人は織構造、糸密度などをどのように設計しているのかを調べる。	4時間
第6回 (材料分野) 布の性質(防しわ性、剛軟性) モンサント法により織物のたて方向およびよこ方向の防しわ度を測定する。また、45度カンチレバー法およびハートループ法による剛軟度測定も行う。	布のしわが何に起因しているのかを調査、考察する。	4時間
第7回 (材料分野) 布の性質(保温性) 各種試料の保温性を冷却法を用いて測定する。	布の構造と保温性との関係を考察する。	4時間
第8回 (整理分野) 石けんおよび人工汚染布 JIS規格に従い、モデル人工汚染布を作成する。またそれを洗浄するための石けんの作成を行う。	モデル汚れの基本成分や、石鹸の構造を理解できるようにする。	4時間
第9回 (整理分野) 草木染による染色 種々の草木を用いて、媒染剤との組み合わせで色相変化を確認する。	媒染剤の役割について理解する。	4時間
第10回 (整理分野) 綿布の漂白、綿布の蛍光増白 綿布に対し、複数の漂白剤により漂白と蛍光増白操作を行い、目視と表面反射率測定によりその効果を確かめる。	目視と表面反射率による白さの違いを理解できるようにする。	4時間
第11回 (整理分野) 人工汚染布の洗浄試験 モデル人工汚染布(自作および、市販)を洗浄剤(自作石鹸および市販合成洗剤)で洗浄し、洗浄効果を確かめる。	洗浄による白度の向上を異なる洗浄剤により評価し、その違いの意味を理解する	4時間
第12回 (整理分野) ドライクリーニング溶液の特性 ドライクリーニングのしくみと洗浄性を確かめる。	水系洗浄と非水系洗浄の相違を理解する	4時間
第13回 (整理分野) 糸の合成(レーヨン・ナイロン)と染色の基礎 6, 10ナイロンおよび銅アンモニアレーヨンの糸を作成し、制作した糸の染色を試みる。	界面重合反応の概要を理解できるようにする。再生繊維の基本的作成法を理解できるようにする。	4時間
第14回 (整理分野) オパール加工と繊維の違いによる染色性の差 綿・ポリエステル混紡繊維に対して、綿の選択的除去を行い、染色性の差を確かめる。	混紡と交織の違い、繊維と染料の相性を知る。	4時間

授業科目名	色彩学				
担当教員名	藤井 紀江				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	個人または企業様でのパーソナルカラー診断及び配色アドバイス 専門学校にて関連科目を担当。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

私たちの日常生活の中で「色」は様々なシーンで取り入れられ活用されています。実際に活用されている多くの「色彩」がどのように色の効果を発揮し、ファッションシーンや暮らしの中でどのように活用されているのか知ることには意義があります。本授業では、色彩に関する基礎的な知識・理論について理解することを目標とし、さらにファッションの分野や実生活での色彩の活用方法を自分の力で考え役立てることが出来る様、色の特性、色彩心理、配色理論、色彩コーディネートを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

色彩の基礎知識の理解

色のイメージ・心理的効果・配色理論の総合的理解

目標：

色の持つ特性・色彩心理・配色理論を理解することで、漠然と受け止めている「色」というものを系統的・理論的に理解し、より幅広く色彩を活用することが出来る。

色の持つイメージ・与える心理的効果・配色理論を総合的に理解することでより実践的にカラーコーディネートができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

ファッションにおける色彩に関する課題を見つけることができる。

アパレル制作やインテリアにおける配色を企画・立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	10 %	：	実習以外の授業での小テストを行い理解度を評価する。
提出物	40 %	：	各授業で出したワーク用プリント、実習課題の提出状況と提出物の評価を3段階とする。
定期試験	30 %	：	色彩に関する知識の理解度について定期試験を実施する。
授業態度	20 %	：	各回授業への積極的参加（発表や質問）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話の取扱い）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・新配色カード199a	・日本色研事業株式会社	・年

参考文献等

色彩検定公式テキスト2級編（2022年改訂版） A・F・T公式テキスト改訂版編集委員会
 色彩検定公式テキスト3級編（2022年改訂版） A・F・T公式テキスト改訂版編集委員会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 色の分類と三属性とPCCS ・色を正確に表現して伝える方法について説明する。色を表す基準となる、色相、明度、彩度について解説し、色立体、表色系についても概説する。 ・PCCS（日本色研配色体系）について、その構成や表示方法について解説する。	今回の学びを復習する。	4時間
第2回 PCCSの色相環とトーン表 ・PCCSの色相環の構成と色相環の作成。トーン表の作成（ワーク用プリント配布） ・PCCSのトーン表構成を学び、トーン表の作成（ワーク用プリント配布）	今回の学びを復習する。	4時間
第4回 色とは（1）色が見える仕組み 色が見える仕組み・光の分光など、色を学ぶ上での基礎知識を説明する。 他、カラーカードを使って色のイメージを考察。	今回の学びを復習する。	4時間
第5回 色とは（2）眼の働きと照明と色（3）混色 ・眼に入った光が脳に伝わる仕組みや眼の構造について解説する。 照明光の種類や特徴、色の見え方への影響についても説明する。 ・色の三原色や色が混ぜ合わさることで別の色が生み出される仕組みについて説明する。	PCCSの色相環とトーン表の完成	4時間
第6回 色彩調和（1）色相から配色を考える ・PCCSの色相環を使い配色理論を学び、配色する力を養う。 ・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施（ワーク用プリント配布）	ワーク用プリントの完成	4時間
第7回 色彩調和（2）トーンから配色を考える ・PCCSのトーン表を使い配色理論を学び、配色する力を養う。 ・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施（ワーク用プリント配布）	ワーク用プリントの完成	4時間
第8回 色彩調和（3）基本的な配色技法 ・アクセントカラー・セパレーション、グラデーションなど基本的な配色技法について学ぶ。 ・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施（ワーク用プリント配布）	ワーク用プリントの完成	4時間
第9回 色彩心理 ①色の与える心理的効果 色の視覚効果 (1) 色の与える心理的効果を感じ覚・連想・象徴をキーワードに学ぶ。 (2) 対比・同化・面積効果など色同士が互いに影響し合い変化して見えることを学ぶ。 (ワーク用プリント配布)	ワーク用プリントの完成	4時間
第10回 色彩心理 ②色の与える心理的・生理的効果 ・代表的な各色をテーマに心理的・生理的効果を学ぶ。 ・色の伝えるイメージを言葉に結び付けて捉える。 ・イメージワードに沿って、カラーカードを使って三色配色を考える。	ワーク用プリントの完成	4時間
第11回 配色実践①テーマ色ごとの色探し ・色にはそれぞれの心理的効果やイメージがあるが、実際にどう使われているのか。テーマ色ごとに雑誌から写真を切り抜き、配色カードを使ってその写真に使われている色を探していく。写真を選ぶ基準は自分がいいなと思った写真。色を意識して見る、テーマカラーと配色されている色でどういうイメージを表現しているか確認することで自分の色の幅を広げる。	雑誌などから写真を切り抜き考察	4時間
第12回 配色実践②テーマ色ごとの色探し 前回切り抜いた写真がどの配色に該当するかを考察する。	課題の完成	4時間
第13回 配色実践③イメージでデザイン画に色付け	今回の学びを復習する。	4時間

	デザイン画に、それぞれのイメージを決め、イメージに沿った色を塗っていく。		
第14回	パーソナルカラー概要とイメージスケールの作成・ファッションと色彩 (カラートレンド) ・たくさんの色の中から「似合う色」を見つけるパーソナルカラー。自分に似合う色を知ること色使いの幅が広がり、「色」というものを身近に感じ、色の楽しさを実感できる。 ・イメージによる色のイメージスケールを作成する。 ・ファッションビジネスにおける色の重要性について説明する。	イメージスケールの完成	4時間

授業科目名	衣環境学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

衣服は、着用目的や時期、部位などによって求められる機能が異なり、さらに、年齢や性別が違えば、サイズや形態だけでなく生理機能、運動機能および心理特性も異なってくる。よって、快適で健康的な衣服の設計には、着用する人の身体条件を取り巻く環境条件の相互関係を捉える必要がある。この授業では、人間の生理・心理・健康を基盤に、我々の生活環境と衣服との関係を理解し、着衣が人体に及ぼす影響と求められる衣服の機能や適した素材、デザインへの配慮を考慮し、快適で健康的な衣環境を形成できる能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

「アパレル生理・衛生」分野の専門知識

目標：

衣服と健康の関わりを理解し、TPOに応じた着衣のあり方を思考できる。

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得

健康と快適性を追求したテキスタイル設計およびアパレル設計を考え、消費者に適切にアドバイスする応用力を修得できる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

快適で健康的な衣生活を実現するために、環境条件に適した衣服を選択できる。

人間—衣服—環境系の中における着衣と健康との関わりについて正しく理解し、衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

中間テスト	30 %	：	「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができているか」という観点から中間評価する。
小テスト	15 %	：	毎回授業終了時に小テストを行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。
受講状況	10 %	：	授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する。
演習課題	15 %	：	授業途中で演習を行い、「専門的知識を用いて、衣料管理士として消費者に適切な解答ができているか」等の観点から評価する。
定期試験		：	「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができているか」という観点から期末評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日
場所： 授業実施教室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

第1回	ガイダンスーなぜ衣環境を学ぶのかー/アパレルと健康について 授業の進行や概要、学ぶ意義について説明する。また、衣服の機能と、人間ー衣服ー環境の関係を理解し、健康で快適な衣環境について学ぶ。	健康の定義についてミニレポートを作成する。	4時間
第2回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節（前半） 健康の条件として、体温・皮膚温の定義や違い、測定方法、体温調節と寒暑感の関係について学ぶ。	様々な環境条件を想定して体温調節と熱移動について考察する。	4時間
第3回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節（後半） 自律性体温調節反応（皮膚血管反応や発汗反応）について、行動性体温調節反応との違い、体温調節と環境温熱の因子との関連について学ぶ。	自立性体温調節と行動性体温調節の違いについてミニレポートを作成する。	4時間
第4回	アパレルによる気候適応 II. 衣服による気候調節 快適な衣服気候とはどのような状態か、衣服を通して熱や水がどのように移動するのか、衣服の形態や着装と衣服内気候との関連について学ぶ。	伝導・対流・放射・蒸発の違いについてミニレポートを作成する。	4時間
第5回	アパレルによる気候適応 III. アパレル製品の保温性・放熱性 衣服の保温力と蒸発熱抵抗の単位や測定法と、着衣の快適気候域について学ぶ。	授業日に着用していたクロ値を算出しておく。	4時間
第6回	アパレルによる気候適応 IV. 気候適応障害の予防と対策 熱中症や低体温症、冷え性の予防と対策について学ぶ。	熱中症対策および冷え性対策のためにできることについてミニレポートを作成する。	4時間
第7回	中間テストと振り返り 前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを実施し、その後これまでの授業内容を復習する。	確認テストの結果、理解が不十分であった内容を復習して理解に努める。	4時間
第8回	アパレルの拘束性と運動機能 I. 身体拘束の指標と衣服圧 衣服圧の発生要因と測定方法や、布地の伸長特性および身体曲率との関係について学ぶ。	日常生活の中でどのような場合に衣服圧が発生するかについてミニレポートを作成する。	4時間
第9回	アパレルの拘束性と運動機能 II. 動作に伴う身体の変形とアパレルの運動機能性 動作時の身体の変形とそれに伴う着衣に求められる運動機能性について学ぶ。	ジャケットを制作するにあたり必要なことについてミニレポートを作成する。	4時間
第10回	アパレルの拘束性と運動機能 III. 衣服圧の人体障害とアパレルにおける有効利用 衣服圧における履物や寝具の圧迫が人体へ及ぼす影響と、衣服圧の有効利用について学ぶ。	衣服圧はどのような着用場面で有効となるかについてミニレポートを作成する。	4時間
第11回	アパレルと皮膚の生理・衛生 皮膚の構造と役割を理解し、皮膚に接触する下着や寝衣に必要な条件、汚れによる機能性劣化や臭いの予防する加工法について学ぶ。	下着を清潔に着用するために必要な条件についてミニレポートを作成する。	4時間
第12回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 I. アパレルによる障害と対策 衣服そのものによる危害と衣服による健康被害の回避対策について学ぶ。	衣服着用時に生じる事故を挙げ、その対策についてミニレポートを作成する。	4時間
第13回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 II. 高齢社会におけるアパレル	高齢者が健康に生活できるために、支援できることについてミニレポートを作成する。	4時間

	成人と身体機能や形態が異なる高齢者に適した衣環境について学ぶ。		
第14回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 Ⅲ. 妊産婦・乳幼児の衣服 妊産婦と乳幼児の身体機能と、各ライフステージに適した衣環境について学ぶ。	乳幼児の衣服着用時における注意点を挙げるとともに、妊産婦の衣服の種類について調査してまとめる。	4時間

授業科目名	ファッションビジネス概論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館で学芸員として衣装の研究・保存・調査・レクチャーなどの業務に従事した実績を有する神戸を中心として企業や団体の販売促進や集客向上のコンサルティング業務の実績を有する				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義は、ファッション産業やマーケティングのこれまでの流れや、現状を学ぶことで、ファッションビジネスに関する基礎的な知識を身につけます。ファッションの専門分野で働くことを目指す人はもとより、生活者としての消費生活を営む上でも、有効となる“自ら考える能力”を養います。授業では、最近のファッション業界の動向も踏まえて、変わりゆくファッションビジネスの状況を伝えながら、その構造と仕組み、さらには今まさに業界が抱える問題点や、今後の展望まで考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ファッション・ビジネスだけでなく幅広い業界の仕組みや問題点に関する知識を得る

目標：

様々な知識をもとに、ファッション産業とそれを成り立たせている社会の仕組みについて理解できる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

授業から得た知見と、自ら調査した事柄をあわせて、業界や市場の現状の課題を検討し、将来に向けての展望を考える力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

40 %

期末試験

： 授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『改訂 衣生活のための消費科学』 社団法人日本衣料管理協会
- 『ファッションビジネスの進化』 大村邦年 晃洋書房 2017
- 『Fashion Bussiness 創造する未来』 尾原蓉子 織研新聞社 2016
- 『ザ・ファッション・ビジネス』 明大商学部（編） 同文館出版 2015
- 『ファッションビジネスの文化論』 内村理奈 北樹出版 2014
- 『誰がアパレルを殺すのか』 杉原淳一・染原睦美 日経BP社 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜お昼休み

場所： 生活デザイン学科 第2研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>消費科学とは</p> <p>21世紀に入ってこれまで拡大し続けてきた大衆消費社会も大きな潮流の変化が見られ始めています。特に、消費者の多様化と生産者の責任については、一層複雑な様相を呈してきています。 このような状況の中でますます重要性を増す、消費科学の役割や、特に繊維製品に関する消費科学のこれまでと現在について学びます。</p>	消費科学という言葉について、自分のわかる範囲でできるだけ広範に調べておく	4時間
第2回	<p>繊維製品の品質とは</p> <p>消費者ニーズが多様化するなかで、繊維製品のバリエーションも多岐にわたっている昨今ですが、その分、品質の保証や評価の手法がますます重要になってきています。この授業では、衣服の品質評価とその試験方法や品質保障の現状について学んでいきます。</p>	授業で学んだ品質評価基準について、海外の事例も含めてより広範に調べてみる	4時間
第3回	<p>繊維製品の品質表示</p> <p>2017年に繊維製品の組成や取り扱いについての表示方法が大きく改正されましたが、それらの表示について正しい情報を消費者に対してしっかりと説明する義務が、衣服の生産・販売をする企業や店舗には発生してきます。この授業では、繊維製品の品質表示の概略と改正後の表示方法について学んでいきます。</p>	自分が一番最近買った服の品質表示のタグを確認し、そこに何が表示されているか調べておく	4時間
第4回	<p>ファッションビジネスの仕組み</p> <p>1着の衣服が手元に届くまでに、いったいどれほどの人が関わっているのでしょうか？ 様々な業態の企業が複合的に携わり、素材から製品化、流通などの工程を経て、ようやく店頭と並ぶのです。 この授業では、ファッションビジネスを構成している、多種多様な業態を紹介し、その仕組みについて学びます。</p>	ファッションビジネスの仕組みについて自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる	4時間
第5回	<p>繊維産業とファッションビジネス</p> <p>日本の繊維産業のなかには、海外のラグジュアリーブランドと取引している企業もあります。 年々縮小している産地の現状も事実ですが、その一方でまだまだモノづくりの国としての可能性を秘めているのです。 日本を中心とした繊維産業について、糸から織り布、染色の産地の実状や、新素材開発の取り組み、国外からの需要などを、学びます。</p>	日本の繊維産業の現状について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。	4時間
第6回	<p>ファッションビジネスにおける企画と生産</p> <p>服づくりには、単にモノづくりの要素だけではなく、物語づくりの要素も不可欠です。 日本の服づくりの中核を担うアパレルメーカーの企画や生産、ビジネス運営について、海外の実状とも比較しながら、学んでいきます。</p>	アパレルメーカーの現状について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。	4時間
第7回	<p>ファッションビジネスにおける製造と流通</p> <p>グローバル化する現代のファッションビジネスにおいて、どこで製造し、どこで販売するかは、まさに地球規模になりつつあります。 それらの工程を管理し、品質を高めていくことが、ビジネスの成功においても非常に重要な要素となります。 流通戦略や流通チャンネルについて解説します。またSPA（製造小売業）などの実状についても学んでいきます。</p>	SPAと呼ばれる業態について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。	4時間
第8回	<p>ファッションビジネスにおける小売りと販売</p> <p>2000年代以降、急速に増えつつある大型ショッピングセンターは、ファッションビジネスにおける小売りと販売の形態について、いま大きく変わりつつある一つの要因ともいえます。 多様化する小売りの業態と現状、さらに販売のあり方について、学んでいきます。</p>	自分の身近にあるファッション店舗について自分で独自に調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。	4時間
第9回	<p>消費者とその行動</p> <p>日本では戦後間もない1950年代から現在に至るまで、社会における消費の在り方は大きく変化してきました。それにあわせて、消費者の取る行動もまた変わり続けています。 この授業では、消費者の価値観やライフスタイルの変化や、消費者行動を引き起こす様々な要因について学んでいきます。</p>	消費者行動と店舗との関係について、自分でもより詳しく調べておく	4時間
第10回	<p>消費者調査とその方法</p>	インターネットを使って、衣料に関する消費者調査について調べておく	4時間

	<p>すべての消費者は、それぞれが異なる考え方やライフスタイルを持ち、多種多様な行動をしながら暮らしています。その多様な消費者の実態を把握するためにおこなう調査を消費者調査といいます。この授業では、消費者調査の種類やそのやり方、さらにその意義について学んでいきます。</p>		
第11回	<p>ファッションビジネスにおけるブランディング</p> <p>老舗のバッグ・ブランドであるルイ・ヴィトンが、新進気鋭のデザイナーやアーティストとコラボレーションして、実験的な商品をつくり出すのはなぜでしょう？ 伝統と革新を両立するブランドのイメージを保ち続けるため、ラグジュアリーブランドは様々な取り組みを絶やしません。この授業では、ラグジュアリーブランドから新興ブランドまで、ファッションビジネスにおけるいろいろなブランディングについて、学んでいきます。</p>	<p>自分のなかの身近なブランドへのこだわりについて考えて、その考察内容も加味しながら、ノートをしっかりまとめる。</p>	4時間
第12回	<p>ファッションビジネスの多様化</p> <p>インターネットサービスの企業であるAmazonが、東京コレクションのスポンサーになりました。そこには、Amazonが本格的にファッション産業に参入する可能性が高まっているという背景があります。いまファッションビジネスの世界は、これまでのメーカー企業に加えて、新しい業態の参入が激しくなりつつあります。この授業では、ファッションビジネスにおける新しい業態について、紹介していきます。</p>	<p>ファッションが買うだけでなく、借りるやシェアするというものにもなりつつある事例について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。</p>	4時間
第13回	<p>ファッションビジネスの課題</p> <p>2017年、『誰がアパレルを殺すのか』という衝撃的なタイトルの本が発売され、業界の注目を集めました。これはファッションビジネスの世界が、いま新しく生まれ変わりつつあるということをあらわしているのです。この授業では、同書の内容を紹介しながら、アパレル業界が抱えている課題について考え、またその先を見据えた取り組みも紹介していきます。</p>	<p>アパレル業界の現状の課題や新たな取り組みについて自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。</p>	4時間
第14回	<p>ファッションビジネスにおける新たな価値創造</p> <p>人気のファッション・ブロガーがファッションショーの最前列を飾る時代、ファッションビジネスにおける価値の生み出し方も、日々刻々と変わりつつあります。ファスト・ファッションへの反動から生み出された、スロー・ファッションやエシカル・ファッションなどのムーブメントも、これまでにはなかった価値の創造です。21世紀のファッションの可能性について、様々な事例を紹介しながら、考えていきます。</p>	<p>有名ファッション・ブロガーの発信力について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりまとめる。</p>	4時間

授業科目名	デザイン表現実習 I				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では洋服をデザインする為の基礎を学びます。デザインをする為にはテクニックと知識、そして思考法を知る必要があります。前期の授業では個性の認識、それを発展させるための思考法と基礎的なテクニックとを学びます。まず個々の個性を自己認識していくために必要な情報を集め、分析、理解し、インプットした知識を自分の個性というフィルターを通してアウトプットし新しい洋服のクリエイションを行います。前期はデザインに重要な色や柄、デザインするためのテクニック、軽衣料のデザインを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

デザインを学ぶために様々なものをリサーチする
デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる

目標：

リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現することができる
学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる
My Vision Book制作を通して自身の個性を理解し、作品制作の実践に繋げる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション1	20 %	：	作ったプリント柄の美しさ、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。
定期試験（発表・作品提出）	40 %	：	前期に制作した作品と集めた資料をまとめて、自分の世界観をまとめた資料のプレゼンテーションを行います。世界観を明確に示しているか、資料のまとめ方やプレゼンテーション内容について評価します。
プレゼンテーション2	30 %	：	スカートのデザインプレゼンテーションでの創造性、現代性、一貫性などの完成度を評価します。
授業内課題	10 %	：	デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」
その他の資料は随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 色を学ぶ、自分の好きな色は…？ ファッションで色は非常に重要な要素です。色の組み合わせやプリント柄など、自分の好きなアーティストの色使いから学び、自分の好きな色や色の組み合わせを見つけます。	アーティストのリサーチを行う	1時間
第2回 色を学ぶ、プリント柄1：色を探す/ムードボード作成の基礎 基本的なプリントの送りを学び、自分の好きな色、アーティストを参考にオリジナルモチーフを考える。集めた資料をまとめ、ムードボードを作るための基礎の説明と実習を行う。	ムードボードに必要な資料をまとめておく	1時間
第3回 色を学ぶ、プリント柄2：送り柄 前の授業で作ったオリジナルモチーフを送り柄にする。作ったプリント柄をボディ上に配置し、洋服での見え方を確認する。	自分の持っている服にオリジナルモチーフを合わせてバランスを確認しておく	1時間
第4回 デザイン画の基礎/My Vision book作成1：個性とは 人体の仕組みを学び、デザイン画の基礎を学ぶ。様々なポーズを描く為のベースを作る。自分の個性を認識し、今後デザインするための基礎作りの為にMy Vision book作成の説明を行う。	人体の仕組みを復習しておく/プレゼンテーションの準備を終えておく	1時間
第5回 デザイン画の基礎、様々なポーズを描く/My Vision book作成2：資料の探し方/色を学ぶプレゼンテーション 正面、デアンシェ、3/4など様々なポーズを描く。My Vision bookに必要な資料をまとめる。色を学ぶの課題プレゼンテーション。	My Vision bookに必要な資料を集める	1時間
第6回 着色を学ぶ/アイテムを学ぶ スカート1：シルエットとボリューム 布地の描き方を学び、着色の練習を行う。布地ごとの描き方や着色方法を学ぶ。スカートのシルエット、ボリュームのバリエーションと名称の説明。マーケットリサーチの説明し、次週までにスカートのマーケットリサーチを行う。	スカートのマーケットリサーチを行う	1時間
第7回 アイテムを学ぶ、スカート2：ディテールを学ぶ スカートのディテールを知る。ベルトやポケットなどディテールの作りを学ぶ。スカートのマーケットリサーチをまとめる。	デザインするためのテーマ案資料を集めておく	1時間
第8回 テーマの設定/ムードボードを作る スカートをデザインする為のテーマを考える。テーマに必要なヴィジュアルを集めムードボードを作成し、その中からデザインする為の要素を探す。	テーマのムードボードを仕上げしておく	1時間
第9回 ディテール、素材のリサーチ、平面図 スカートに適した素材を知る為、実物を見て学ぶ。ベルトやポケットなどディテールをデザインし、自分のイメージにあったディテールを考える。平面図の基礎を学ぶ。	ボリュームやシルエットのリサーチを進めておく	1時間
第10回 スカートのデザインを行う 色やプリント柄、シルエットやボリュームなど、自分のテーマに沿って行ったリサーチをまとめる。これまでに行ったリサーチ（テーマ、ディテール、シルエット、ボリューム、素材など）をまとめて、自分のスカートをデザインする。	デザイン画のアイデアをメモ、イラストでまとめておく	1時間
第11回 デザイン画を描く ムードボード、リサーチした資料をもとにスカートのデザイン画を描く。5体以上コーディネートも考えて下書きを行う。デザイン画を5体以上描き、そのうち2体を着色、平面図も描き仕様書を作る。	5体のデザイン画の下書きを終えておく	1時間
第12回 スカートデザインのプレゼンテーション ムードボード、リサーチ資料、デザイン画をまとめてプレゼンテーションを行う。	My Vision bookの資料を集めておく	1時間

第13回	My Vision bookの活用 これまで集めてきた資料をMy vision Bookにまとめ、自分の世界観をまとめる作業を行う。	資料の追加、まとめを進めておく	1時間
第14回	My Vision をまとめる 前期の課題であった色、スカートの作品とMy vision Bookで集めた自分の世界観をヴィジュアルとキーワードでまとめプレゼンテーションを行う準備をする。	プレゼンテーション準備を終えておく	1時間

授業科目名	デザイン表現実習Ⅱ				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では衣服をデザインする為の基礎を学びます。後期の授業では前期に行った世界観を確立し、クリエイティブに発展させていきます。後期はシャツ・ブラウスなどのトップス、ジャケット・コートなど重衣料のデザイン課題を通じて襟や袖といったディテールワークや様々な素材加工を学びます。また、ファッションの大きな問題である大量生産・大量消費の問題にも触れ、SDGsを学ぶことで持続可能なファッションデザインを実践できるよう、着なくなった衣服や使わなくなった身の回りのものに新しい価値を産み出すアップサイクルを実践したデザイン表現、作品制作を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

デザインに必要な様々な知識を身につけ、その知識を実践する術を学ぶ

デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる。

目標：

ファッション以外の社会問題（SDGsなど）を学び、その解決方法としてデザインはどのような役割を果たすのかを実践する。

学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる

SDGsなど様々な課題を知り、その分析から実際にデザインし作品制作を行うことで持続可能なファッションの実践ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験（発表・作品提出）

評価の基準

： コンセプトメイキングのムードボードの内容、完成度とそのプレゼンテーションを評価します。

25 %

作品提出・プレゼンテーション

： アップサイクルプロジェクトの作品、プレゼンテーションの内容を作品は創造性、一貫性、現代性で評価、プレゼンテーションは口頭での説明内容、ヴィジュアル資料の完成度から評価します。

40 %

作品提出

： シャツデザインの創造性、現代性などポートフォリオの内容を評価します。

25 %

授業内課題

： デザイン画や平面図など授業内課題の完成度で評価します。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」
未来を変える目標、SDGsアイデアブック
その他の資料は随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限
場所： 生活デザイン第3研究室

授業計画

回数	授業計画
第1回	<p>ポリウムワーク1：布で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚の布を3つの穴を開けて頭と腕を通せば衣服となる、そこからつまむ、ひねる、折る、よせる、たたむ、切るなど実際に布を触ると想像できない様々な動きが現れ新しいアイデアとなる。実際の布を使ってボディ上で様々なポリウムワークを行う。
第2回	<p>ポリウムワーク2：シルエットワーク/アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース1：アイテム理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業で行ったポリウムワークの基本を使い、衣服以外のものをテーマとしそのポリウムを布で表現するし、シャツ・ブラウス・ワンピースのシルエットを作る。 ・シャツ、ブラウス、ワンピースというアイテムを学ぶ。衿や袖などディテールのバリエーションとその名称。
第3回	<p>アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース2：ディテールワーク（襟、袖、開き、ポケットなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業時に作ったテーマと身頃のシルエットにあったディテールをリサーチを参考に考え、ボディ上に布を使ってアイデア出しを行う。
第4回	<p>アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース3：ダーツや切り替え線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダーツや切り替え線を使い、デザインする方法を立体裁断で実施する。
第5回	<p>アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース4：デザインに落とし込む デザイン画表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディ上で作ったシルエット、ディテールを参考にデザイン画を描く。 ・デザイン画を5体描き、1体は着色する。 ・テーマ、ポリウムリサーチ、ディテールリサーチの資料とデザイン画をまとめポートフォリオを作成する。
第6回	<p>アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース5/アップサイクルプロジェクト1：SDGsとは/素材加工とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ、ポリウムリサーチ、ディテールリサーチの資料とデザイン画をまとめポートフォリオを作成する。 ・ファッション業界では大量生産・大量消費・大量廃棄など様々な問題が出てきている。今後のファッションデザインはエシカルやサステイナブルといった思考を持って学ばなければならない。 SDGs目標12 つくる責任 つかう責任を実践する為、着なくなった衣服、使わない素材を用いて新たなデザイン・作品制作を行うアップサイクルプロジェクトを実施する。 ・素材加工はデザインする上で重要な要素となるので、様々なテクニックを学び素材加工を作成する。 イメージソースを探し、ムードボード作成を行う。
第7回	<p>アップサイクルプロジェクト2：SDGsとファッション/素材加工の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、集めた資料をもとにイメージ、テーマをグループごとに考える。 ・集めたヴィジュアル資料をもとに素材加工のイメージを考え、必要な材料を決める。
第8回	<p>アップサイクルプロジェクト3：リサイクルとアップサイクル/素材加工リサーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどのようなアイテムを作成するかグループで考え、必要な資料を探しラフ案を作る。 ・実際に素材加工を作成する。
第9回	<p>アップサイクルプロジェクト4：イメージ制作/素材加工アイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作、ムードボード（テーマとキーワードなどヴィジュアル資料のまとめ）、もともになった衣服の写真など必要な資料をグループで分担し作成する。
第10回	<p>アップサイクルプロジェクト5：イメージをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作、ムードボード（テーマとキーワードなどヴィジュアル資料のまとめ）、もともになった衣服の写真など必要な資料をグループで分担し作成する。

学修課題

作ったポリウムの写真をまとめておく。
襟、袖など各ディテールのリサーチを進める。
ボディ上に作ったシルエット、ポリウムの写真を撮り、ディテールごとにまとめておく。
テーマ・ポリウム、ディテール等の写真をまとめておく。
ポートフォリオを提出できるように仕上げておく。
必要な材料や資料を集めておく。
テーマ、イメージを進めておく/必要な材料を揃える。
素材加工の実物とムードボードを完成させる。
自分が担当する作業を進めておく。
自分が担当する作業を進めておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間
1時間
1時間
1時間
1時間
1時間
1時間
1時間
1時間

第11回	アップサイクルプロジェクト6：デザインを考える/重衣料のディテールを学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作 ・ジャケットやコートなど重衣料のディテールや素材など基礎知識を学ぶ。 	プレゼンテーションの準備を終えておく。	1時間
第12回	アップサイクルプロジェクト7：作品制作/コンセプトメイキング1：世界観の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作 ・これまでの作品とMy Vision bookの見直し、追加を行いコンセプトの基礎を固める。 	My Vision Bookの見直しを行い、必要な資料を集める。	1時間
第13回	アップサイクルプロジェクト8：ポートフォリオ制作/コンセプトメイキング2：世界観をまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作を終え、ポートフォリオにまとめていく。 ・コンセプトをまとめる。 	今日の作業をまとめ、プレゼンテーション準備を進める。	1時間
第14回	アップサイクルプロジェクト9：発表する/コンセプトメイキング3：プレゼンテーション資料 <ul style="list-style-type: none"> ・アップサイクルプロジェクトのポートフォリオのプレゼンテーション。 ・アップサイクルプロジェクトの作品提出。 ・コンセプトをまとめ、プレゼンテーション準備を進める。(後期定期試験課題) 	コンセプトプレゼンテーションの準備を進める。	1時間

授業科目名	ビジュアルデザイン実習				
担当教員名	関根 祐司				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	昭和59年より株式会社TCDにてデザイン企画に携わり、平成7年より独立して個人デザイン事務所を主宰し、現在に至っている。				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

ファッション業界において不可欠な「ビジュアルデザイン」についての基礎知識と、ビジュアルデザイン制作において業界標準のアプリケーションの基礎操作を学びます。
 ファッションは衣服・アクセサリー・雑貨などの商品そのものだけではなく、ブランドや商品周りの印刷物、店舗、web発信、広告などの様々なビジュアルデザインによって支えられています。
 各自オリジナルのブランドを設定し、そのグラフィックデザイン（ロゴ、印刷物）を実際に制作しつつ、知識を学びます。
 「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」を用いて制作をします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッションブランドについて考察することによる、グラフィックデザインが発信するイメージ・情報についての理解と知識の習得。
 ファッションブランドの具体的なアイテムを自ら制作することによるデザインに対する理解と知識の習得。

目標：

考察をもとに、既存ブランドの発信する意図とそのデザインとのつながりや整合性を理解できる。
 個々のデザインを消費者にアピールするための基本コンセプトを身に付ける

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

発信したい情報・イメージをビジュアルとして他者に伝えることを身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
 また、授業内でデザインの課題制作をしますが、全て提出すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

提出された授業内課題	90 %	： 授業内での理解度、制作態度、及び提出制作物に対しての評価をします。
期末プレゼンテーション	10 %	： 授業内課題を総括して各自がプレゼンテーションをして、その評価をします。（定期試験）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

細山田デザイン事務所 誰も教えてくれないデザインの基本 最新版 株式会社エクスマレッジ 2022年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業内課題（デザインワーク）」に取り組むことに加え、その授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けてアイデアラフ他の予習・復習などをすること。
また、日常生活において身の回りのデザインについて意識を向け、「何故そのデザインが人を惹きつけるのか」についての考察をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ビジュアルデザインとは / ファッションにおけるビジュアルデザインの有用性・重要性について ●「ビジュアル=視覚的」デザインによるコミュニケーションについて。 ●ブランドイメージを構築するためのビジュアルのあり方について。 ●6W2Hについて Adobe Illustratorについての概略説明	○日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。	4時間
第2回 オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 1 ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定のアイデア検討 ●デザインワーク「ブランドシート」作成 Adobe Illustratorについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第3回 オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 2 / ファッションにおける「写真」の重要性 ●「写真」のイメージ発信の重要性について解説 ●ブランドの世界観を表現する写真の検討 ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定のアイデア検討（継続） ●デザインワーク「ブランドシート」作成（継続） Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第4回 オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 3 ●ブランドの世界観を表現する写真の検討（継続） ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定のアイデア検討（継続） ●デザインワーク「ブランドシート」作成（継続） Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第5回 オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 4 ●ブランドの世界観を表現する写真の検討（継続） ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定の完成 ●デザインワーク「ブランドシート」完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのアイデアに対する検証と熟考。	4時間
第6回 オリジナルブランドのタグのデザイン 1 / ファッションにおける印刷物の重要性 ●「印刷物」の重要性について解説 ●オリジナルブランドのタグデザインのアプローチ ●デザインワーク Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第7回 オリジナルブランドのタグのデザイン 2 / 印刷について ●「印刷」に関する基礎知識について解説 ●オリジナルブランドのタグデザイン（継続） ●デザインワーク（継続） Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第8回 オリジナルブランドのタグのデザイン 3 ●オリジナルブランドのタグデザイン完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグに対する検証と熟考。	4時間
第9回 オリジナルブランドのタグのデザイン 4 ●工作の手際の解説と実演 ●オリジナルブランドのタグ実物を完成させる。（紙工作して仕上げ）	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグに対する検証と熟考。	4時間
第10回 オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードをデザイン 1	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。DMについて調べ、考察をする。自分のブランドのインビテーションカードをつくるためのアイデアを出す。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ●ファッションショーにおけるインビテーションカードの重要性を解説 ●オリジナルブランドのファッションショーを開催する仮定の元、インビテーションカードをデザイン ●デザインワーク Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第11回	オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードをデザイン 2 <ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードをデザイン (継続) ●デザインワーク (継続) Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。DMについて調べ、考察をする。自分のブランドのインビテーションカードをつくるためのアイデアを出す。	4時間
第12回	オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードをデザイン 3 <ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードのデザイン完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のデザインアイデアに対する検証と熟考。	4時間
第13回	オリジナルブランドのファッションショーのインビテーションカードをデザイン 4 <ul style="list-style-type: none"> ●工作の手際の解説と実演 ●オリジナルブランドのインビテーションカード実物を完成させる。(紙工作して仕上げ) 	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のデザインアイデアに対する検証と熟考。	4時間
第14回	オリジナルブランドのプレゼンテーション準備 <ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルブランドを「制作物を提示し、そのデザインに対する想いと工夫した点を述べながら」プレゼンテーションする為の準備をする。 	プレゼンテーションの予行演習と自己検証。	2時間

授業科目名	業界研究				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館の学芸員として、資料の整理や展示、プレゼンテーションに関する仕事に従事した経験を有する。 また神戸を中心に企業や団体への販売促進や商品開発の提案の実績も有する				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

消費者ニーズの多様化や二極化が顕著になりつつある昨今のファッション業界ですが、そこでは大きな潮流の変化もおこりつつあります。さらにはコロナ禍の影響やSDGsの時勢もあり、ファッション業界は今まさに大きな転換点を迎えています。授業では、そんな昨今のファッション業界の現状や動向を分析して、そこから時代の消費者ニーズに対応したブランドのコンセプトを打ち立てて、商品の企画や選定、店舗の設計やデザインなどについても学び、アパレル業界における運営プロセスを理解していきます。また、中間と期末にプレゼンテーションを行うことで、自分の考え方や見せ方を周りに的確に伝える力も伸ばしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ブランド企画のための知識と手法

目標：

マーチャンダイザーやバイヤーに必要な資質を身につけることができる。

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力
- DP4. 課題発見

ファッションビジネスの現状を見据え、新しい発想で、ブランド企画を行うことができる。

コレクションブランドのテーマやスタイリングによるファッション性を分析できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

注意事項等
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	10 %	：	リサーチ結果を踏まえ、論理的手法に基づいた考察がなされているかの観点から、4段階で評価します。
企画書作成	20 %	：	ブランド企画の資料に基づき、独自のルーブリックにより4段階で評価します。
資料に基づくプレゼンテーション	20 %	：	全学ルーブリックに基づき、評価します。
期末試験	50 %	：	授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

太田伸之『売り場は明日をささやく』織研新聞社
 高原昌彦『ファッションビジネス入門』織研新聞社
 栗野宏文『モード後の世界』扶桑社
 尾原容子『創造する未来』織研新聞社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
 場所： 生活デザイン第2研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 アパレル商品の種類と特質 アパレル業界における商品の種類や特質について、幅広い基礎知識を学びます。	アパレル業界のしくみについて調べておく	4時間
第2回 アパレル商品の各分野における市場特性とその動向 最新のアパレル商品の市場特性や動向について、多角的に調査して、分析を試みます。	WEBや雑誌により好きなモノを収集しておく	4時間
第3回 アパレル企業とその職種 日本におけるアパレル企業の発展のこれまでと、最近の多様な企業のかたち、さらにその職種のバリエーションについて学びます	自分の気になったアパレル関連企業についてより詳しく調査を重ねてまとめる	4時間
第4回 ファッション産業とグローバル化 昨今のグローバル化の広がりと、そのことがアパレル産業にもたらす光と影について、様々な事例を通して、学んでいきます。	特にファッション産業のグローバル化がもたらすマイナスの事象について、調べてみる	4時間
第5回 商品企画とは何か アパレル業界における商品企画の仕事に焦点をあてて、その概略を説明し、実際に自分で商品の企画を試みます。	授業に先立ち、自分の好きな服や気になる服の傾向について調べておく	4時間
第6回 ターゲットとはなにか アパレル業界におけるターゲットの分析の重要性について解説しながら、前回自分が企画した商品のターゲット層の分析を試みます	ターゲットの分類やマッピングについて、インターネットや書籍を使って調べてみる	4時間
第7回 自分のファッションイメージマップを作る これまでの授業で企画し分析した情報をもとに、自分の好きなファッションについてプレゼンテーションするためのイメージマップをつくります	次回のプレゼンテーションに備えて、イメージマップを作成しておく	4時間
第8回 プレゼンテーション ファッションイメージマップの考察レポートをもとに、発表する。質疑応答など、必ず全員が質問をするように、活発な議論を行う。	他の学生からの質問や意見をしっかりとノートに整理して、まとめておく	4時間
第9回 ファッション情報の収集と分析・分類 パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京などの各都市での最新のコレクションを調べて、その情報を収集し、分析・分類し、そこに共通するような自分だけのキーワードをあたえてファイリングしていきます。	できるだけ多くの最新ファッション情報に触れて見識をひろめておく	4時間
第10回 コンセプトをたてる 自分もしブランドをつくることしたらと仮定して、これからの時代を拓いていくようなコンセプトを立てていきます。	コンセプトについてキーワードと説明文を完成させる	4時間
第11回 セレクトショップを仮想する これまでの情報を参考に、オリジナルなセレクトショップのブランドコンセプトを考える。また同時にターゲット絞り、ターゲット特性についても考える。	オリジナルなブランドの企画案を考えておく	4時間
第12回 ブランドとブランドマネジメントについて アパレルブランドからラグジュアリーブランドまで、様々なブランドについて学ぶと同時に、それぞれのブランドマネジメントの特徴について知見を広める	自分の気になるブランドが、その価値を高めるためにどのような取り組みをしているか調べておく	4時間
第13回 店舗を構想してみる	WEB、DMなど販促方法を調べておく。	4時間

	自分の展開したいセレクトショップについて、ターゲット層や商品群のことも考えながら、その店舗について構想してみる。		
第14回	プレゼンテーション それぞれ自分が構想したセレクトショップについて、その商品展開から店舗のイメージまで、できるだけ詳細にプレゼンテーションしていく	できるだけ他の人の発表もしっかり聴き、その様々なアイデアをノートにまとめておくこと	4時間